

郷土に関する意識調査等の結果報告書
(自慢したくなるあおもり推進事業基礎調査 中間報告)

H24.10.30
青森県企画政策部

目 次

I	調査概要	4
II	先行事例	5
III	比較に用いた既存の調査	6
IV	実施した意識調査の種類	7
V	調査結果の概要	8

VI	調査結果の詳細	10
1	意識調査回答者の属性	10
2	結果内容詳細	13
	(1) 地域への誇り	13
	① 県民が愛着を持っている地域資源は「自然」「食」「祭り・伝統芸能」「水」「温泉」「方言」	13
	② 県民が愛着を持つ地域資源は、りんご、ねぶた、奥入瀬溪流など	15
	③ 居住地域によって愛着に大きな差が見られる地域資源もある	21
	④ 誇りを感じるのは「自分自身が見たり、体験したりしたとき」	26
	⑤ 自分の住む市町村に対する愛着は高い	27
	⑥ 地域のあるがままの姿に共感している県民	28
	⑦ 地域への愛着がない理由は「他地域の出身だから」が最も多い	29
	⑧ 「県内の好きなところに住めるとしたら移り住みたい」理由は地域の魅力、利便性	29
	⑨ 青森県に対するマイナスイメージは低下	30
	(2) 県民気質	31
	⑩ 青森県民は東北トップレベルの「人見知り」	31
	⑪ 青森県民の人付き合いは全国平均並みだが、東北の中では比較的ドライ	32
	⑫ 青森県民のものの考え方には他の県とは違った特徴があると思っている	33
	⑬ 青森県民は人情味が厚いと思う人は6割	33
	⑭ 行事や祭りに積極的に参加したいと思う人の割合は今も昔も過半数を超える	34
	⑮ 昔からあるしきたりは尊重すべきだと思う人は減少してきている一方で、年代差も見られる	35
	⑯ 「よそ者」という言葉がまだ生きていると思う人は他県出身者に多い	35
	⑰ 住んでいる地域の方言が好きな人の割合は高い	36
	⑱ 東北の中でも本県は「なまり」を強く意識している	37
	⑲ 多くの県民は方言を残したいと思っている	37
	⑳ 青森県民の楽観性、チャレンジ精神は東北の中では平均的	38
	㉑ 青森県民のイメージは、がまん強くてまじめ	40
	㉒ 地域によって人々の気質が違うと思う県民は6割を超える	40
	㉓ 津軽地域の人々のイメージは他の地域よりも強く意識されている	41
	㉔ 自分が住んでいる地域の人に対して持っているイメージと、他の地域の人から思われているイメージには違いが見られる	42
	㉕ 東北＝田舎というイメージに対する東北人の思いは複雑	48
	(3) 地域情報の収集方法	49
	㉖ 地域の話や新情報を得る媒体は、テレビ・新聞・広報紙	49
	㉗ インターネットは、検索目的での利用が多い	49
	㉘ ロゴマーク、イメージキャラクターは、若い人ほど早く浸透する	50
	㉙ 他市町村の暮らし、文化、歴史などをもっと知ることへのニーズは高い	51
	㉚ 地域の暮らし、文化、歴史などをもっと知る方法として関心が高いのは、街歩き、地域資源を活用したイベント、宿泊ツアーなど	51
	㉛ 自由意見	52

I 調査概要

1 調査の背景

東北新幹線全線開業を契機に、県内各地で、地域資源を生かした地域づくり、町の活性化に向けた取組が活発化している。人々が希望を持って地域のために行動していく原動力として、地域への誇り・愛着が大きく関係していることが知られており、本県の今後ますますの元気づくりのため、この調査は、その実態を把握し、今後に生かそうとするものである。

また、本県では、人々の控え目な性格、地域による気候風土や言葉の違いなどが、地域づくりを円滑に進めていくための課題としてしばしば話題にされるところであり、それらの解明のため、県民気質の実態についても把握しようと試みたものである。

2 調査内容・方法

調査は、①誇りの実態、②県民気質、③地域情報の収集方法、の3つの視点から行うこととし、方法としては郷土に関する意識調査（平成24年7月、郵送により実施）をベースとして、同時期に実施したインターネット調査（東北6県及び東京都を対象）や既存調査との比較などにより、総合的に分析したものである。

また、郷土に関する意識調査の設計、分析作業に当たっては、青森中央短期大学教授（国際文化博士）北原かな子氏から助言を得ている。

3 エリア分けの考え方

地域ごとの比較に当たっては県内を次の6地域に分けて行った。

東青地域：青森市、平内町、今別町、蓬田村、外ヶ浜町

中南地域：弘前市、黒石市、平川市、西目屋村、藤崎町、大鱈町、田舎館村

三八地域：八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村

西北地域：五所川原市、つがる市、鱒ヶ沢町、深浦町、板柳町、鶴田町、中泊町

上北地域：十和田市、三沢市、野辺地町、七戸町、六戸町、横浜町、東北町、六ヶ所村、おいらせ町

下北地域：むつ市、大間町、東通村、風間浦村、佐井村

また、本報告書中、地域を簡便に表すために「津軽」「南部」「下北」という名称を用いているが、それぞれの地域範囲は次のとおりである。

「津軽」：東青・中南・西北地域

「南部」：三八・上北地域

「下北」：下北地域

II 先行事例

調査に先立ち、全国の都道府県に対し、

- 1 県民性に関する調査研究
- 2 郷土愛・地域への誇りの醸成を主目的とする取組

の状況に係る照会を行ったところ、結果は以下のとおりであった。(平成24年5月31日現在)

<照会結果の概要>

○ 県民性に関する調査研究ありとした道県 13県

北海道、青森県、秋田県、山形県、茨城県、埼玉県、山梨県、愛知県、福井県、
兵庫県、島根県、佐賀県、鹿児島県

ほとんどが、県の総合計画等に係る意識調査の中で、「県への愛着」や「住み続けたいか」を問う簡単なものが多かったが、秋田県、山形県、茨城県、愛知県などは、特徴ある内容となっている。

○ 郷土愛・地域への誇りの醸成を主目的とする取組ありとした県 24県

青森県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、
山梨県、静岡県、富山県、岐阜県、三重県、福井県、滋賀県、兵庫県、和歌山県、
島根県、岡山県、高知県、佐賀県、長崎県、熊本県

大別すると以下の3種類に分けられた。

(1) 県民運動的な取組

- ・秋田県：秋田人“変身”プロジェクト
- ・福島県：新“うつくしま、ふくしま。”県民運動
- ・栃木県：県民の日事業
- ・千葉県：県民の日事業
- ・山梨県：県民の日記念事業
- ・静岡県：「富士山の日」運動
- ・岐阜県：飛騨・美濃じまん運動
- ・三重県：美（うま）し国おこし・三重
- ・岡山県：胸を張ってPR！岡山まるごと情報発信プロジェクト

(2) 「ふるさと教育」と銘打った体系的な取組

- ・富山県
- ・島根県

(3) 「ふるさとを知る」「地域資源の活用」の観点からの細事業としての取組

- ・その他の県

Ⅲ 比較に用いた既存の調査

1 青森県のイメージアップに関するアンケート調査（青森県環境生活部）

- ・調査時期：平成13年8月
- ・調査方法：郵送及びFAX
- ・調査対象：15～59歳の県民及び東京圏（東京30km圏内）在住者
- ・標本数：県民1,000、東京圏在住者760
- ・有効回答数：青森県490、東京圏500

2 青森県民の意識に関する調査（青森県企画政策部）

- ・調査時期：平成20年4月14日～4月25日
- ・調査方法：郵送
- ・調査対象：16歳以上の県民（無作為抽出）
- ・標本数：10,000
- ・有効回答数：4,119

3 現代の県民気質－全国県民意識調査－（NHK放送文化研究所）*1

	平成8年(1996年)	昭和53年(1978年)
調査時期	平成8年6月28日～7月7日	昭和53年2月～5月
調査方法	個人面接法	同左
調査対象	各都道府県の16歳以上	同左
標本数	各都道府県900人、全国計42,300人、12人×75地点	各都道府県900人、全国計42,300人、15人×60地点
有効回答数	全国29,620人(70.0%)	32,421人(76.6%)

*1 報告書中では「NHK調査」と略している

IV 実施した意識調査の種類

1 郷土に関する意識調査（県民アンケート）

- ・ 調査内容：「地域への誇り」「県民気質」「地域情報の収集方法」
- ・ 調査対象：20代～60代の県民
- ・ 標本数：5,000
- ・ 抽出方法：市町村住民基本台帳からの無作為抽出
- ・ 調査方法：郵送法
- ・ 回収数（回収率）：2,025(40.5%)
- ・ 調査期間：平成24年7月11日～7月20日（8月10日到着分までを対象）

2 インターネット調査

- ・ 調査内容：「地域への誇り」「県民気質」
- ・ 調査対象：東北6県及び東京都の20代～50代の住民
- ・ 調査方法：インターネット
- ・ 回収数：各都県400（各年代男性50・女性50 計100） 合計2,800
- ・ 調査期間：平成24年8月6日～8月8日

3 県民気質等に関する県職員アンケート

- ・ 調査内容：「県民気質」
- ・ 調査対象：県職員
- ・ 調査方法：簡易システム（庁内LAN）
- ・ 回収数：1,187
- ・ 調査期間 平成24年7月23日～8月3日

※「県民気質」について、一般県民と比較するために実施。（県職員は、県内各地域や他県の人と接する機会が多いため、より客観的な判断ができると推測）

V 調査結果の概要

1 結果の概要

(1) 地域への誇りについて

① 青森県民は自分の住む地域に対し高い愛着を持っている

自分の住む「市町村」に対する愛着を聞いたところ、「愛着がある方だ」又は「どちらかと言えば愛着がある方だ」と答えた割合は87.6%となった。(p. 27)

愛着を感じる理由は「住み慣れているから」(60.9%)、「この土地の自然や食などが自分に合っていると思うから」(45.3%)、「子供の頃からこの土地の祭りや行事に参加してきたから」(37.4%)など、あるがままの地域の姿に共感する意見が多くなっている。(p. 28)

県民が愛着を持っているものとしては「自然」「食」「祭り・伝統芸能」「水」「温泉」などが選ばれており、中でも「祭り・伝統芸能」は本県ならではの特徴となっている。(p. 13)

② 居住地域によって愛着に大きな差が見られる地域資源もある

愛着を持っている地域資源を具体的に聞いたところ、「りんご」(89.2%)、「ねぶた」(79.3%)、「奥入瀬溪流」(72.1%)などが上位を占めた。(p. 15)

地域資源への愛着は、地域によってかなりの差があるものもあり、例えば「岩木山」(50.1%)、「せんべい汁」(40.8%)は、資源の存在する中南地域、三八地域におけるそれぞれの愛着の割合は80%を超えるが、地域によっては20%を下回っているために、県全体の割合では伸び悩むという結果になっている。(p. 21)

地域資源に誇りを感じるのは「自分自身が見たり、体験したりしたとき」(66.8%)が最も高く、次いで「全国放送のテレビ番組で取り上げられたとき」(61.5%)、「県外の友人・知人から褒められたとき」(40.5%)となっている。(p. 26)

愛着を感じる地域資源の数は、年代が進むにつれて増える傾向にあり、「経験」が愛着の一つの要因となっていることがうかがわれる。(p. 15)

③ 青森県に対するマイナスイメージは低下

青森県に対するイメージを、「青森県のイメージアップに関するアンケート調査」(平成13年8月)と比較してみると、「美しい」(41.6%→23.3%)などのプラスイメージが低下している一方で、「親しみの持てる」(16.3%→30.7%)などのプラスイメージは上昇、また「貧しい」(44.1%→27.8%)、「暗い」(40.8%→11.1%)といったマイナスイメージも大きく低下している。(p. 30)

(2) 県民気質について

① 青森県民は東北トップレベルの人見知り

NHK調査において「初めての人に会うのは、気が重い」と答えた割合は、調査が行われた昭和53年、平成8年とも本県は全国1位であり、今回のインターネット調査でも、本県(64.3%)は秋田(64.5%)とほぼ並び、東北トップレベルという結果となった。(p.31)

一方で、「気心の知れた相手との会話は、はずむ」とする人の割合は、東北、東京と比較してもほとんど差異は見られず、「人見知り」は強いが、打ち解けてしまえば他県の人々と変わらない県民の気質がうかがわれる。(p.31)

② 県民のチャレンジ精神は東北の中では平均的

「困難な状況になっても可能性を見出そうとする方か」「仕事や生活の上で、新しいことを積極的に取り入れたい方か」など、個人の行動や考え方について聞いてみたところ、東北の中での差異はほとんど見られなかった。(p.38)

③ 自分が住んでいる地域の人に対して持っているイメージと、他の地域の人から思われているイメージには違いが見られる

青森県民が思う県民イメージを、津軽、南部、下北地域に分けて集計・比較してみると、どの地域においてもほぼ同じ結果となっており、イメージする対象を「青森県民」とした場合、居住地域によるイメージの差は見られない(p.43)。

一方、イメージする対象を「津軽地域の人々」「南部地域の人々」「下北地域の人々」とした場合、自分が住む地域の人々に対して持っているイメージ(自己評価)と、他の地域の人々から思われているイメージには違いが見られる。(p.44~46)

(3) 地域情報の収集方法について

① 県民の情報源は、テレビ・新聞・広報紙

県民の情報源は「テレビ」(78.1%)と「新聞」(71.1%)の2つが大きく抜き出ており、「県や市町村の広報紙」(41.0%)も高い割合となっている。(p.49)

② 他市町村のことをもっと知りたいというニーズは高い

県民の76.1%が自分の住む市町村以外の県内の他の地域の暮らし、文化、歴史を知りたいと答えており、クロス集計により、地域、県人度、年代別に見てもほとんど差は見られなかった。

また、現在住んでいる市町村に対し「どちらかといえば愛着がある」と答えた人で「知りたい」と答えた人は74.8%、同じく「愛着がある」と答えた人で「知りたい」と答えた人は80.3%となっている。(p.51)

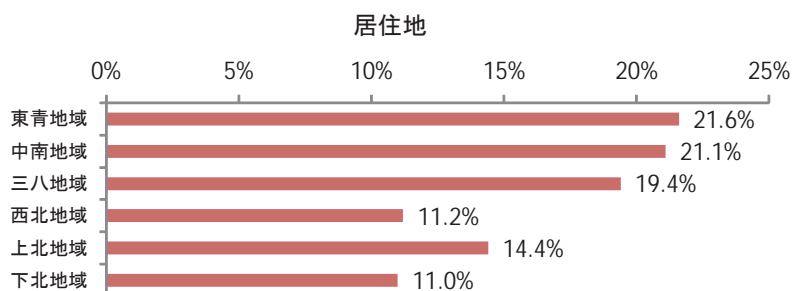
VI 調査結果の詳細

1 意識調査回答者の属性

(1) 県民アンケート

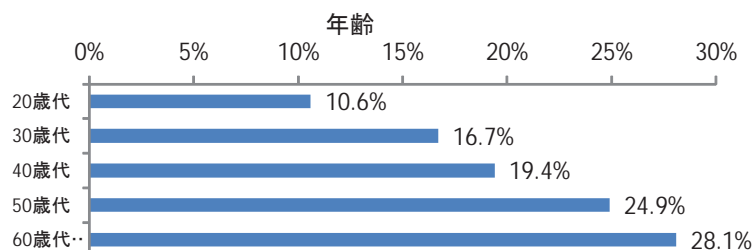
Q1 居住地

東青地域	437	21.6%
中南地域	428	21.1%
三八地域	392	19.4%
西北地域	226	11.2%
上北地域	291	14.4%
下北地域	223	11.0%
無効・無回答	28	1.3%
計	2025	100.0%



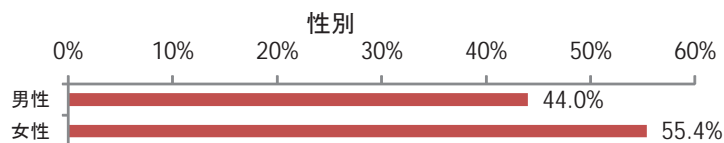
Q2 年齢

20歳代	215	10.6%
30歳代	339	16.7%
40歳代	393	19.4%
50歳代	505	24.9%
60歳代以上	569	28.1%
無効・無回答	4	0.3%
計	2025	100.0%



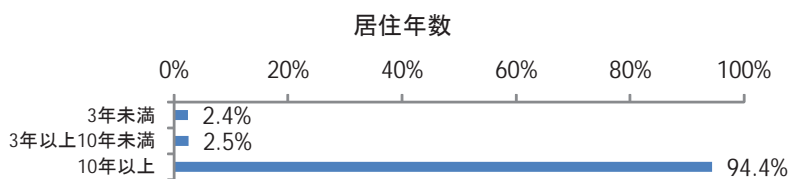
Q3 性別

男性	891	44.0%
女性	1121	55.4%
無効・無回答	13	0.6%
計	2025	100.0%



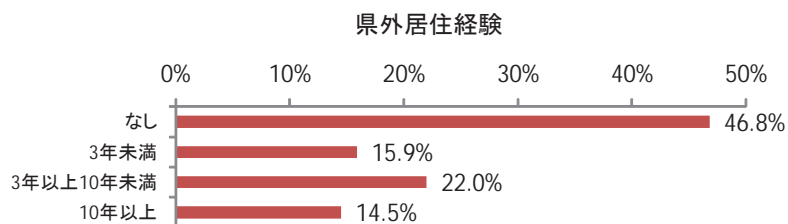
Q4 居住年数

3年未満	49	2.4%
3年以上10年未満	51	2.5%
10年以上	1911	94.4%
無効・無回答	14	0.7%
計	2025	100.0%



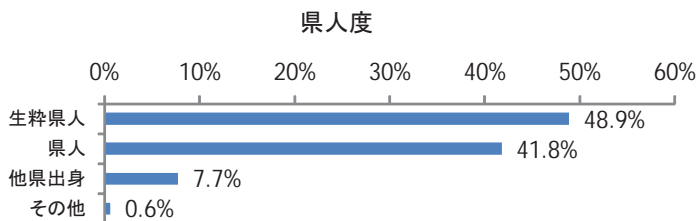
Q5 県外居住経験

なし	948	46.8%
3年未満	322	15.9%
3年以上10年未満	446	22.0%
10年以上	294	14.5%
無効・無回答	15	0.8%
計	2025	100.0%

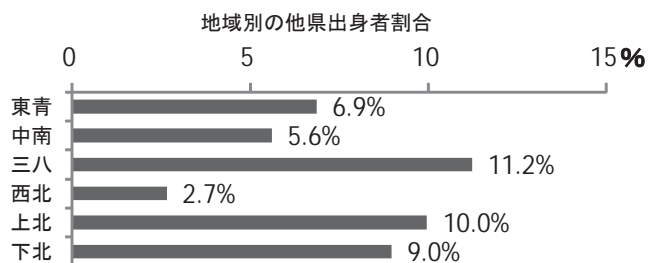
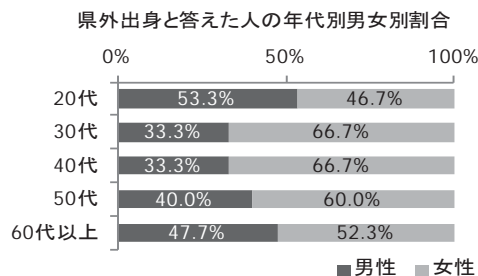
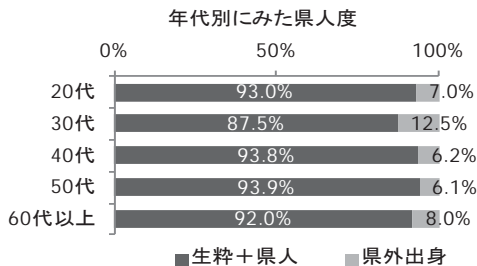


Q6 県人度 (個人の感覚で回答)

生粋県人	990	48.9%
県人	846	41.8%
他県出身	156	7.7%
その他	13	0.6%
無効・無回答	20	1.0%
計	2025	100.0%

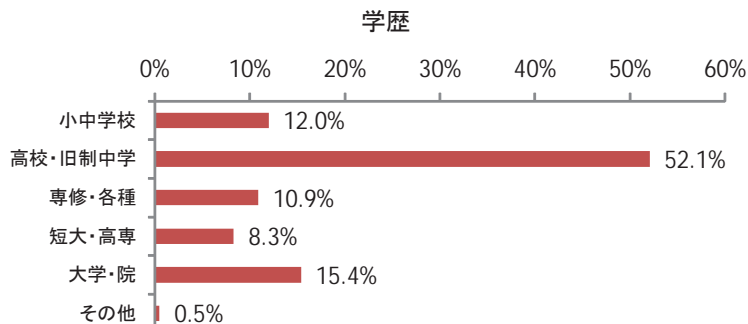


<内訳>



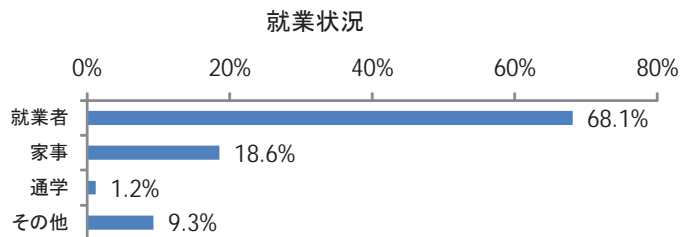
Q7 学歴

小中学校	244	12.0%
高校・旧制中学	1055	52.1%
専修・各種	220	10.9%
短大・高専	168	8.3%
大学・院	311	15.4%
その他	11	0.5%
無効・無回答	16	0.8%
計	2025	100.0%



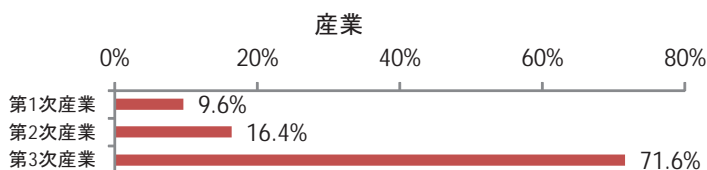
Q8 仕事(就業状況)

就業者	1380	68.1%
家事	377	18.6%
通学	24	1.2%
その他	188	9.3%
無効・無回答	56	2.8%
計	2025	100.0%



Q8 仕事(産業)

第1次産業	133	9.6%
第2次産業	227	16.4%
第3次産業	988	71.6%
無効・無回答	33	2.4%
計	2025	100.0%



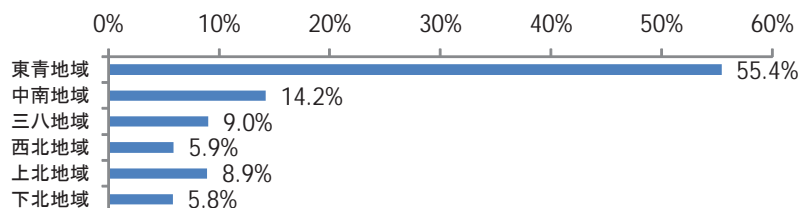
(2) インターネット調査

	内訳	20歳代		30歳代		40歳代		50歳代	
		男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
青森県	400	50	50	50	50	50	50	50	50
岩手県	400	50	50	50	50	50	50	50	50
宮城県	400	50	50	50	50	50	50	50	50
秋田県	400	50	50	50	50	50	50	50	50
山形県	400	50	50	50	50	50	50	50	50
福島県	400	50	50	50	50	50	50	50	50
東京都	400	50	50	50	50	50	50	50	50
計	2800	350	350	350	350	350	350	350	350

(3) 県職員アンケート

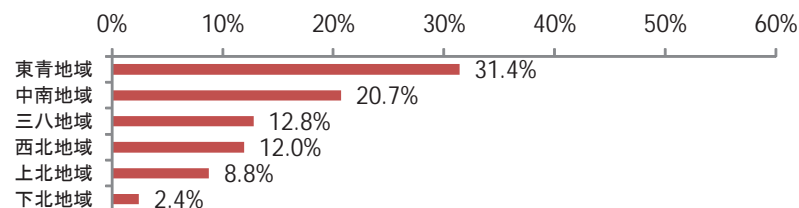
居住地

東青地域	658	55.4%
中南地域	169	14.2%
三八地域	107	9.0%
西北地域	70	5.9%
上北地域	106	8.9%
下北地域	69	5.8%
無回答	8	0.7%
計	1187	100%



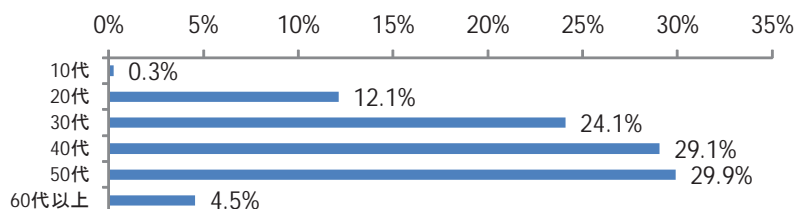
ふるさと

東青地域	373	31.4%
中南地域	246	20.7%
三八地域	152	12.8%
西北地域	142	12.0%
上北地域	104	8.8%
下北地域	29	2.4%
他県・無回答	141	11.9%
計	1187	100%



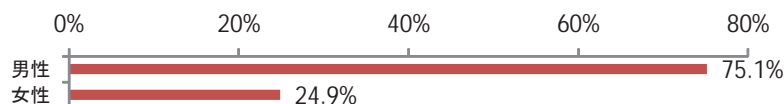
年代

10代	3	0.3%
20代	144	12.1%
30代	286	24.1%
40代	345	29.1%
50代	355	29.9%
60代以上	54	4.5%
計	1187	100.0%



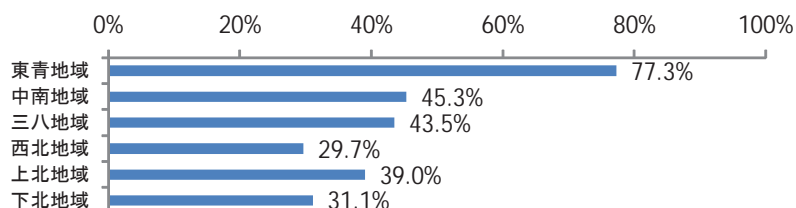
性別

男性	892	75.1%
女性	295	24.9%
計	1187	100.0%



居住経験

東青地域	917	77.3%
中南地域	538	45.3%
三八地域	516	43.5%
西北地域	352	29.7%
上北地域	463	39.0%
下北地域	369	31.1%
計	3155	265.8%



2 結果内容詳細

(1) 地域への誇り

① 県民が愛着を持っている地域資源は「自然」「食」「祭り・伝統芸能」「水」「温泉」「方言」

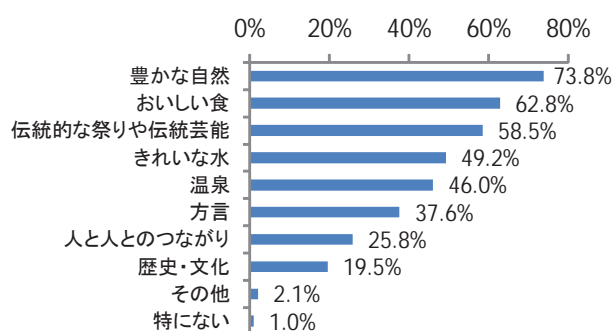
県民が愛着を持っているものは、「豊かな自然」(73.8%)、「美味しい食」(62.8%)、「伝統的な祭りや伝統芸能」(58.5%)が上位を占めた。

青森県民の意識に関する調査(平成20年4月調査)において、「地域振興に活用すべき青森県の強み」を尋ねた質問では、「1位 豊かな自然(70.3%)」「2位 安全・安心・豊富な農林水産物(49.9%)」「3位 伝統的な祭り(47.6%)」「4位 きれいな水(38.3%)」と、ほぼ同様の結果になっており、地域振興に活用すべき資源とは、県民が愛着・誇りを持つ地域資源であることを示している。

また、他県との比較では、「伝統的な祭りや伝統芸能」の数値が高いのが特徴的である。

問1 以下の項目のうち、あなたが気に入っているものをお選びください。(〇はいくつでも)

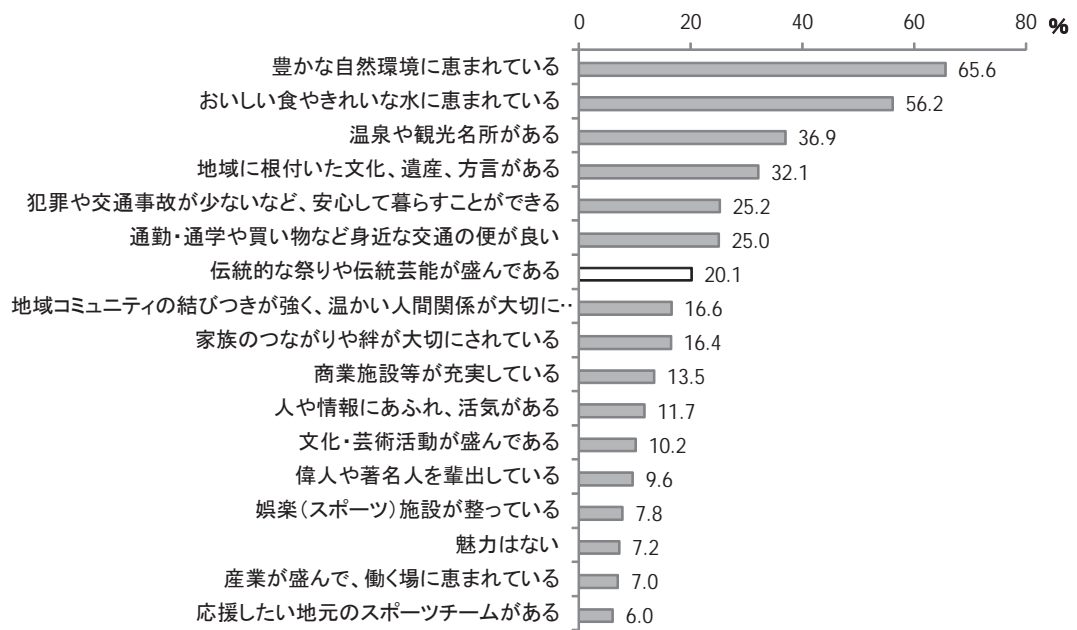
1	豊かな自然	73.8%
2	おいしい食	62.8%
3	伝統的な祭りや伝統芸能	58.5%
4	きれいな水	49.2%
5	温泉	46.0%
6	方言	37.6%
7	人と人とのつながり	25.8%
8	歴史・文化	19.5%
9	その他	2.1%
10	特になし	1.0%
全体		376.3%



※ 地域別・年代別・県人度別・男女別・産業別

問1	豊かな自然	おいしい食	伝統的な祭りや伝統芸能	きれいな水	温泉	方言	人と人とのつながり	歴史・文化
全体	73.8%	62.8%	58.5%	49.2%	46.0%	37.6%	25.8%	19.5%
【地域別】								
東青	77.8%	68.6%	62.9%	67.3%	46.9%	41.2%	24.0%	17.2%
中南	74.8%	56.1%	64.3%	42.1%	52.8%	46.0%	22.7%	27.1%
三八	68.4%	67.9%	63.0%	38.3%	39.8%	28.6%	24.0%	18.1%
西北	71.7%	58.0%	48.2%	42.0%	38.5%	46.0%	31.9%	14.6%
上北	73.9%	57.7%	46.0%	53.6%	50.2%	33.7%	23.4%	15.8%
下北	75.8%	67.3%	59.2%	47.5%	44.4%	29.6%	35.4%	19.7%
【年代別】								
20代	66.0%	62.3%	53.5%	45.1%	38.6%	38.1%	21.9%	17.2%
30代	63.4%	57.5%	58.1%	39.5%	37.2%	40.1%	21.2%	15.9%
40代	71.2%	59.8%	55.5%	46.8%	44.3%	39.7%	19.8%	16.8%
50代	76.4%	64.4%	59.8%	51.9%	48.1%	39.2%	26.1%	20.2%
60代以上	82.4%	66.8%	61.5%	55.9%	53.3%	33.2%	33.9%	23.4%
【県人度別】								
生粋+県人	74.3%	63.5%	58.9%	50.3%	45.9%	39.0%	26.4%	19.5%
他県出身	70.5%	57.7%	55.1%	40.4%	48.7%	24.4%	19.2%	17.9%
【男女別】								
男性	71.8%	59.7%	53.9%	47.8%	45.2%	37.4%	24.9%	20.0%
女性	75.4%	65.2%	62.1%	50.4%	46.4%	37.7%	26.5%	18.8%
【産業別】								
第1次産業	75.9%	60.9%	51.1%	47.4%	44.4%	42.1%	31.6%	14.3%
第2次産業	71.8%	61.7%	52.0%	44.5%	47.6%	36.1%	26.4%	16.7%
第3次産業	71.8%	64.2%	60.3%	50.6%	47.4%	38.0%	23.2%	19.4%

参考：「希望」に関する意識調査（平成 23 年福井県調査）



※ 回答者：地方11県（青森県・山形県・石川県・福井県・山梨県・長野県・奈良県・鳥取県・島根県・高知県・熊本県）及び三大都市（東京都・愛知県・大阪府）に居住する 10 代～60 歳代以上の男女 3,935 人

② 県民が愛着を持つ地域資源は、りんご、ねぶた、奥入瀬溪流など

「気に入っている」または「大事にしたい（誇りだ）」と思う地域資源（複数選択可）のうち、60%を超える高い愛着が示された地域資源は以下のとおりとなった。

りんご(89.2%)、ねぶた(79.3%)、奥入瀬溪流(72.1%)、十和田湖(66.4%)、
棟方志功(66.7%)、津軽塗(65.0%)、津軽三味線(64.8%)、太宰治(63.3%)、
弘前城(62.9%)、ホタテ(62.8%)

【年代別】

年代別で大きな差があったものは以下のとおり。

- ・年配者から人気：十和田湖、山菜、じゃっぱ汁、棟方志功など
- ・若い人から人気：白神山地、大間マグロ、せんべい汁、十和田バラ焼き、わさおなど

また、愛着を感じる地域資源の数は、年代が進むにつれて増える傾向にあり、「経験」が愛着の1つの要因となっていることがうかがわれる。

【県人度別】

「生粋県人＋県人」*2と他県出身者との間では、全般的に「生粋県人＋県人」の愛着が高くなるものが多いが、他県出身者の方が高いもの（種差海岸、にんにく、せんべい汁、わさおなど）もいくつか見られた。

【その他】

「その他」欄に自由記載された地域資源は以下のとおり。

弘前公園、小川原湖、薬研溪流、陸奥湾、深浦の夕日海岸、夏泊半島、海岸線、はまなす菜の花、弘前公園の桜、各地の桜

米、カシス、スイカ、トマト、メロン、大鰐もやし、アピオス、アワビ、海峡サーモン、ナマコ、こんぶ、タラホヤ、煮しめ、津軽そば、津軽漬け、りんごジュース、煮干しラーメン、味噌カレー牛乳ラーメン
甘い赤飯、がっばら餅、きんか餅、子あえ、南部せんべい

田名部祭り、弘前桜祭り、十和田市秋祭り、川内八幡宮例大祭、津軽びいどろ
松山ケンイチ、奈良美智

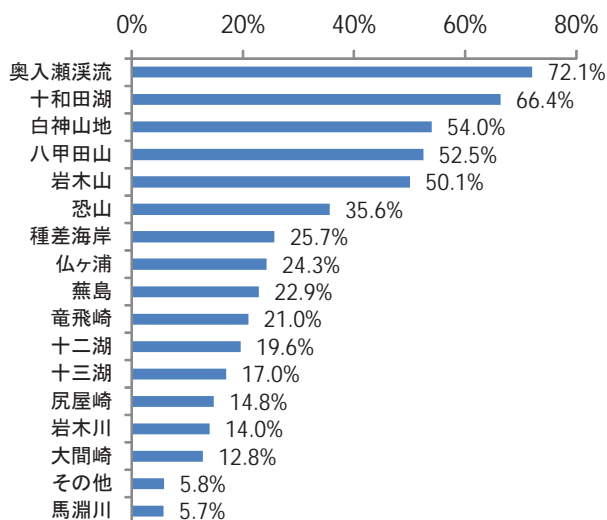
愛着を持つ地域資源を地域別に見ると、「りんご」「ねぶた」のように各地域でまんべんなく愛着を持たれているものがある一方で、「岩木山」「せんべい汁」のように地域によって愛着を持つ人の割合に大きな差が見られるものもある。（詳細は p. 21 参照）

*2 県民アンケートの回答者の属性中、県人度として「生粋県人」又は「県人」を選択した対象者を集計。（p11 参照）

問2 次の項目の中に、あなたが「気に入っている」または「大事にしたい(誇りだ)」と思うものはありますか。

【A 自然・名勝など】

1	奥入瀬溪流	72.1%
2	十和田湖	66.4%
3	白神山地	54.0%
4	八甲田山	52.5%
5	岩木山	50.1%
6	恐山	35.6%
7	種差海岸	25.7%
8	仏ヶ浦	24.3%
9	燕島	22.9%
10	竜飛崎	21.0%
11	十二湖	19.6%
12	十三湖	17.0%
13	尻屋崎	14.8%
14	岩木川	14.0%
15	大間崎	12.8%
16	その他	5.8%
17	馬淵川	5.7%
全体		514.3%

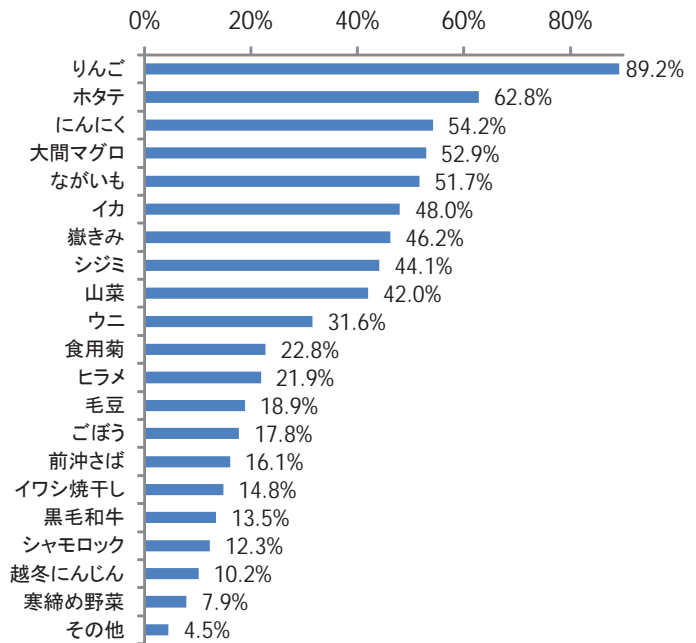


※地域別・年代別・県人度別・男女別・産業別 上位6項目

A	奥入瀬溪流	十和田湖	白神山地	八甲田山	岩木山	恐山
全体	72.1%	66.4%	54.0%	52.5%	50.1%	35.6%
【地域別】						
東青	77.1%	62.9%	57.2%	74.6%	57.7%	33.4%
中南	68.7%	65.2%	66.8%	48.4%	88.1%	24.3%
三八	78.8%	78.3%	43.4%	49.0%	18.4%	32.4%
西北	58.4%	58.4%	62.8%	34.5%	77.9%	25.7%
上北	84.5%	79.7%	51.2%	63.6%	26.8%	40.9%
下北	56.1%	48.0%	36.8%	28.7%	22.0%	69.1%
【年代別】						
20代	67.9%	54.9%	63.3%	43.3%	46.5%	28.4%
30代	71.1%	59.0%	51.9%	45.4%	46.9%	38.3%
40代	70.2%	63.9%	51.9%	53.2%	49.9%	31.6%
50代	75.8%	73.1%	54.7%	55.4%	54.5%	36.6%
60代以上	72.4%	71.2%	52.5%	57.5%	49.6%	38.5%
【県人度別】						
生粋+県人	72.0%	67.4%	54.1%	52.4%	51.1%	35.6%
他県出身	74.4%	55.1%	53.2%	55.1%	38.5%	34.0%
【男女別】						
男性	66.4%	66.2%	50.6%	54.3%	49.7%	34.1%
女性	76.6%	66.5%	56.7%	51.2%	50.3%	36.9%
【産業別】						
第1次産業	61.7%	66.9%	47.4%	46.6%	55.6%	36.1%
第2次産業	72.2%	69.2%	50.7%	48.5%	39.2%	30.4%
第3次産業	74.2%	67.0%	56.0%	54.8%	51.4%	34.8%

【B 食材】

1	りんご	89.2%
2	ホタテ	62.8%
3	にんにく	54.2%
4	大間マグロ	52.9%
5	ながいも	51.7%
6	イカ	48.0%
7	嶽きみ	46.2%
8	シジミ	44.1%
9	山菜	42.0%
10	ウニ	31.6%
11	食用菊	22.8%
12	ヒラメ	21.9%
13	毛豆	18.9%
14	ごぼう	17.8%
15	前沖さば	16.1%
16	イワシ焼干し	14.8%
17	黒毛和牛	13.5%
18	シャモロック	12.3%
19	越冬にんじん	10.2%
20	寒締め野菜	7.9%
21	その他	4.5%
全体		683.4%

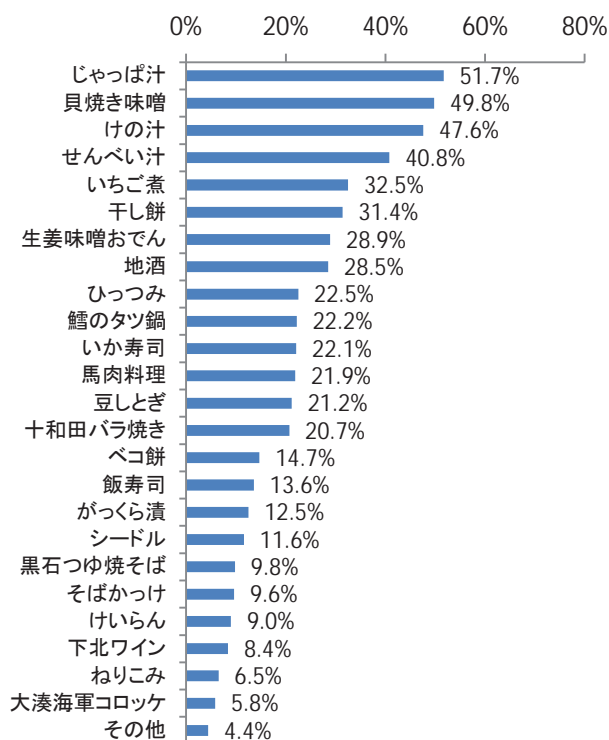


※地域別・年代別・県人度別・男女別・産業別 上位9項目

B	りんご	ホタテ	にんにく	大間マグロ	ながいも	イカ	嶽きみ	シジミ	山菜
全体	89.2%	62.8%	54.2%	52.9%	51.7%	48.0%	46.2%	44.1%	42.0%
【地域別】									
東青	92.2%	76.7%	51.9%	55.6%	54.5%	38.0%	56.1%	47.1%	45.3%
中南	94.9%	63.3%	49.3%	57.7%	44.4%	32.5%	67.1%	50.0%	50.5%
三八	88.8%	52.8%	64.0%	43.6%	53.1%	75.3%	29.1%	33.7%	28.3%
西北	92.9%	54.9%	40.3%	46.0%	43.4%	34.5%	58.8%	61.1%	45.1%
上北	84.2%	60.5%	70.8%	57.7%	72.9%	46.4%	26.8%	47.1%	34.7%
下北	77.6%	64.6%	43.5%	56.1%	38.1%	66.8%	30.0%	24.7%	48.9%
【年代別】									
20代	91.6%	55.3%	55.8%	62.8%	46.0%	45.1%	44.7%	38.6%	24.2%
30代	84.1%	59.3%	54.3%	55.5%	46.0%	40.7%	46.9%	39.5%	33.3%
40代	86.3%	65.6%	51.9%	55.5%	51.1%	49.1%	51.7%	46.3%	34.9%
50代	90.7%	64.4%	55.2%	53.1%	52.1%	48.5%	49.3%	48.1%	47.3%
60代以上	92.4%	64.3%	54.1%	45.7%	57.3%	52.5%	40.1%	43.8%	54.3%
【県人度別】									
生粋+県人	89.4%	63.3%	53.6%	53.1%	51.8%	48.4%	46.5%	44.6%	43.0%
他県出身	88.5%	58.3%	59.0%	51.3%	50.6%	46.8%	42.3%	35.9%	30.1%
【男女別】									
男性	85.4%	60.5%	50.4%	52.0%	47.0%	48.8%	39.3%	39.8%	37.3%
女性	92.3%	64.4%	57.1%	53.8%	55.2%	47.3%	51.7%	47.1%	45.9%
【産業別】									
第1次産業	87.2%	51.9%	48.1%	51.9%	49.6%	45.9%	38.3%	39.1%	36.8%
第2次産業	84.6%	59.9%	47.6%	54.6%	43.6%	51.1%	36.1%	41.9%	37.4%
第3次産業	90.0%	63.2%	55.5%	54.3%	52.7%	47.8%	49.4%	43.3%	41.3%

【C 郷土料理など】

1	じゃっぱ汁	51.7%
2	貝焼き味噌	49.8%
3	けの汁	47.6%
4	せんべい汁	40.8%
5	いちご煮	32.5%
6	干し餅	31.4%
7	生姜味噌おでん	28.9%
8	地酒	28.5%
9	ひつつみ	22.5%
10	鱧のタツ鍋	22.2%
11	いか寿司	22.1%
12	馬肉料理	21.9%
13	豆しとぎ	21.2%
14	十和田バラ焼き	20.7%
15	ベコ餅	14.7%
16	飯寿司	13.6%
17	がっくら漬	12.5%
18	シードル	11.6%
19	黒石つゆ焼そば	9.8%
20	そばかけ	9.6%
21	けいらん	9.0%
22	下北ワイン	8.4%
23	ねりこみ	6.5%
24	大湊海軍コロッケ	5.8%
25	その他	4.4%
全体		547.7%

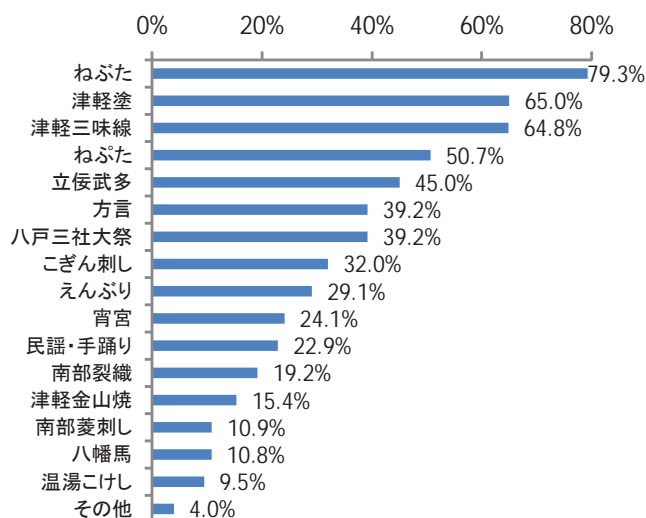


※地域別・年代別・県人度別・男女別・産業別 上位5項目

C	じゃっぱ汁	貝焼き味噌	けの汁	せんべい汁	いちご煮
全体	51.7%	49.8%	47.6%	40.8%	32.5%
【地域別】					
東青	67.0%	65.7%	63.4%	25.4%	18.5%
中南	65.9%	58.4%	74.8%	22.0%	18.7%
三八	22.7%	16.3%	9.4%	86.7%	69.9%
西北	72.1%	65.5%	76.1%	19.0%	13.3%
上北	33.7%	34.4%	22.7%	55.0%	46.0%
下北	48.0%	66.8%	35.9%	28.3%	22.0%
【年代別】					
20代	34.9%	39.5%	45.6%	52.6%	35.3%
30代	38.6%	45.4%	44.5%	43.7%	30.4%
40代	45.8%	52.4%	47.6%	38.7%	34.4%
50代	60.2%	57.0%	49.5%	39.0%	31.5%
60代以上	62.6%	48.0%	48.7%	37.8%	32.3%
【県人度別】					
生粋+県人	54.2%	51.0%	50.0%	39.7%	32.3%
他県出身	26.3%	37.2%	19.2%	55.1%	35.9%
【男女別】					
男性	49.0%	48.4%	40.3%	36.3%	31.2%
女性	54.0%	51.0%	53.4%	44.3%	33.5%
【産業別】					
第1次産業	56.4%	46.6%	48.1%	30.8%	23.3%
第2次産業	44.5%	48.0%	37.4%	48.0%	33.9%
第3次産業	49.7%	52.1%	47.8%	40.3%	32.8%

【D 工芸・文化・祭りなど】

1	ねぶた	79.3%
2	津軽塗	65.0%
3	津軽三味線	64.8%
4	ねぶた	50.7%
5	立佞武多	45.0%
6	方言	39.2%
7	八戸三社大祭	39.2%
8	こぎん刺し	32.0%
9	えんぶり	29.1%
10	宵宮	24.1%
11	民謡・手踊り	22.9%
12	南部裂織	19.2%
13	津軽金山焼	15.4%
14	南部菱刺し	10.9%
15	八幡馬	10.8%
16	温湯こけし	9.5%
17	その他	4.0%
全体		561.1%

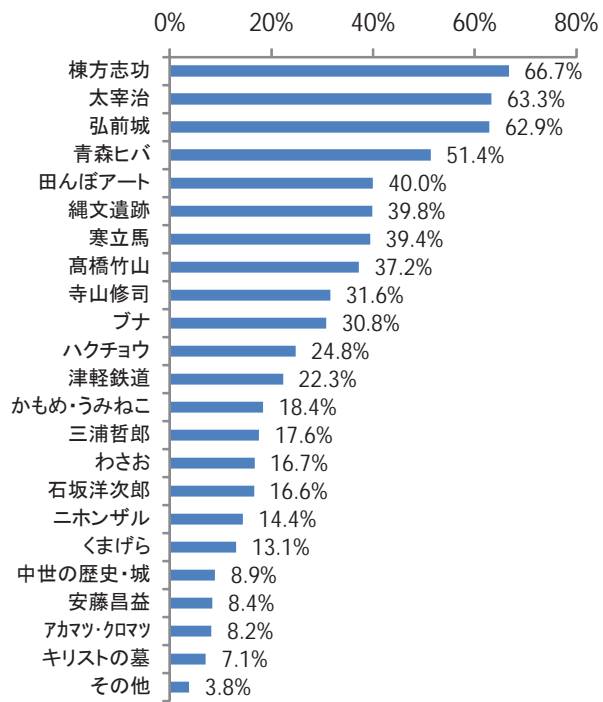


※地域別・年代別・県人度別・男女別・産業別 上位7項目

D	ねぶた	津軽塗	津軽三味線	ねぶた	立佞武多	方言	八戸三社大祭
全体	79.3%	65.0%	64.8%	50.7%	45.0%	39.2%	39.2%
【地域別】							
東青	89.9%	77.1%	69.1%	40.0%	41.2%	41.4%	24.7%
中南	77.1%	81.8%	76.2%	87.9%	47.4%	49.3%	20.1%
三八	65.3%	48.7%	52.3%	31.6%	30.6%	28.3%	84.7%
西北	77.9%	72.6%	71.7%	52.7%	73.9%	44.2%	15.0%
上北	84.5%	50.5%	61.9%	40.2%	46.0%	36.1%	52.9%
下北	83.4%	51.1%	53.8%	45.7%	43.0%	34.1%	29.6%
【年代別】							
20代	82.8%	52.6%	57.2%	50.7%	43.7%	45.6%	40.5%
30代	81.4%	60.8%	60.2%	52.5%	43.7%	41.6%	32.7%
40代	80.9%	60.3%	62.6%	47.6%	46.1%	38.7%	37.7%
50代	78.8%	70.9%	68.5%	55.0%	45.5%	39.2%	39.2%
60代以上	76.1%	70.5%	68.7%	48.2%	45.3%	35.7%	43.4%
【県人度別】							
生粋+県人	79.8%	66.5%	65.0%	51.0%	45.9%	40.5%	39.4%
他県出身	75.6%	49.4%	64.1%	45.5%	35.3%	24.4%	34.0%
【男女別】							
男性	78.8%	59.8%	62.5%	51.5%	46.0%	38.6%	38.5%
女性	79.9%	69.2%	66.5%	50.3%	44.4%	39.7%	39.7%
【産業別】							
第1次産業	75.2%	59.4%	57.9%	43.6%	45.9%	38.3%	30.8%
第2次産業	78.0%	57.3%	58.6%	47.1%	40.5%	36.6%	44.1%
第3次産業	82.6%	65.1%	65.2%	52.0%	46.9%	41.8%	38.7%

【E 人物・動植物・歴史など】

1	棟方志功	66.7%
2	太宰治	63.3%
3	弘前城	62.9%
4	青森ヒバ	51.4%
5	田んぼアート	40.0%
6	縄文遺跡	39.8%
7	寒立馬	39.4%
8	高橋竹山	37.2%
9	寺山修司	31.6%
10	ブナ	30.8%
11	ハクチョウ	24.8%
12	津軽鉄道	22.3%
13	かもめ・うみねこ	18.4%
14	三浦哲郎	17.6%
15	わさお	16.7%
16	石坂洋次郎	16.6%
17	ニホンザル	14.4%
18	くまげら	13.1%
19	中世の歴史・城	8.9%
20	安藤昌益	8.4%
21	アカマツ・クロマツ	8.2%
22	キリストの墓	7.1%
23	その他	3.8%
全体		643.4%



※地域別・年代別・県人度別・男女別・産業別 上位8項目

E	棟方志功	太宰治	弘前城	青森ヒバ	田んぼアート	縄文遺跡	寒立馬	高橋竹山
全体	66.7%	63.3%	62.9%	51.4%	40.0%	39.8%	39.4%	37.2%
【地域別】								
東青	79.2%	67.5%	63.4%	59.0%	43.0%	48.1%	39.8%	46.7%
中南	67.5%	68.9%	85.7%	49.8%	46.3%	39.5%	32.5%	38.3%
三八	60.5%	55.9%	46.9%	41.1%	28.1%	38.3%	37.5%	30.6%
西北	66.8%	74.3%	73.5%	52.2%	42.5%	36.3%	21.7%	36.3%
上北	60.1%	57.7%	56.0%	44.3%	43.6%	36.8%	44.0%	31.3%
下北	60.5%	52.5%	46.6%	65.5%	33.6%	34.1%	66.4%	35.4%
【年代別】								
20代	48.4%	62.8%	60.5%	38.6%	42.3%	46.5%	29.8%	10.7%
30代	52.8%	59.0%	61.7%	49.3%	31.0%	34.5%	33.9%	20.9%
40代	67.2%	63.4%	62.8%	49.1%	37.4%	35.6%	41.2%	30.8%
50代	77.6%	66.1%	63.8%	54.9%	41.2%	40.0%	41.2%	47.5%
60代以上	71.9%	63.4%	64.0%	56.1%	45.0%	43.1%	43.6%	52.2%
【県人度別】								
生粋+県人	67.0%	64.2%	63.6%	51.5%	41.1%	40.4%	39.3%	38.2%
他県出身	61.5%	55.1%	55.1%	49.4%	26.3%	30.1%	41.7%	25.0%
【男女別】								
男性	64.6%	60.4%	56.7%	50.2%	33.0%	37.6%	36.4%	37.3%
女性	68.2%	65.5%	68.0%	52.4%	45.5%	41.4%	41.9%	37.0%
【産業別】								
第1次産業	60.2%	57.9%	59.4%	48.9%	39.1%	25.6%	36.8%	40.6%
第2次産業	56.4%	54.2%	59.5%	49.8%	33.5%	33.5%	31.3%	28.6%
第3次産業	68.6%	65.8%	63.1%	52.5%	38.1%	41.6%	39.8%	35.8%

参考：県職員アンケートより*³

【14】県外の友達を青森県に誘うとしたら、どこに連れて行きたいですか。おすすめの場所をいくつか教えてください。

○青森、八甲田、奥入瀬、十和田方面	
十和田湖	453
八甲田山・八甲田方面	308
奥入瀬(溪流、遊歩道、鳶沼、谷地、松見の滝ほか)	265
酸ヶ湯温泉	44
鳶温泉・谷地温泉・猿倉温泉	34
星野リゾート青森屋	5
青森市郊外(三内丸山、県立美術館、棟方志功記念館、郷土館、合浦公園、昭和大仏、ねぶたの里、新青森駅ほか)	187
青森ねぶた祭	147
ベイエリア(ねぶたの家ワ・ラッセ、アスパム、A-Factory、青い海公園、八甲田丸ほか)	125
浅虫地区(浅虫温泉、浅虫水族館、海釣り公園ほか)	33
青森駅前周辺(古川市場、アウガほか)	12
その他(市内カフェ巡り、昭和大仏、青森芸術センター、あびねすほか)	8
夏泊半島	8
○弘前、南津軽、西海岸方面	
弘前公園・弘前城(さくらまつり、雪灯籠まつり、植物園ほか)	302
弘前市街(街歩き、禅林街、土手町、鍛冶町、青銀記念館、神社仏閣、藤田記念庭園、洋風建築ほか)	49
弘前ねぶたまつり、まつり関連	32
津軽平野方面(津軽平野、りんご畑、岩木山の景観ほか)	40
田舎館村たんぼアート	30
青荷温泉	17
中野もみじ山、城ヶ倉大橋ほか	11
黒石市内(こみせ通り、伝承工芸館、黒石ねぶたほか)	10
盛美園	6
猿賀神社	4
その他温泉(大鰐温泉、古遠部温泉ほか)	4
黒石温泉郷	4
十二湖(十二湖、青池、日本キャニオン、アオーネ白神十二湖ほか)	157
岩木山(岩木山、スカイライン、岩木山神社、アソベの森、スキー場、お山参詣、スポーツセンター、嶽キミ畑、弥生いこいの広場ほか)	150
白神山地	115
深浦海岸・西海岸(鱒ヶ沢、深浦、岩崎ほか)・海岸の夕日・七里長浜	104
不老ふ死温泉	29
十三湖	22
千畳敷海岸	19
暗門の滝	19
深浦町(風合瀬いか焼き村、木工センター、ガンガラ穴、猿の湯、亀杉)	14
鱒ヶ沢町(ミニ白神、くろくまの滝、菜の花畑、赤石川)	13
わさお	9
ウェスパ椿山	8
嶽温泉	7
西目屋～西海岸方面(目屋ダム、津軽峠、ミニ白神ほか)	5
鱒ヶ沢スキー場	5
津軽三十三観音霊場	1

*³ 地名・商品名等は、アンケートの回答のまま記載している。

○八戸、十和田、三沢方面	
種差海岸・白浜海岸・蕪島	127
八食センター	31
八戸の朝市(湊、館鼻ほか)	20
八戸三社大祭	13
横丁(みろく横丁、長横町、サバの駅ほか)	10
えんぶり祭り	5
八戸キャニオン	3
八戸市街(はっち、おがみ神社ほか)	3
八戸臨海工業地帯	2
是川遺跡・是川縄文館	2
史跡(根城の広場)	1
新郷村(キリストの墓、キリストつぷ、大石神ピラミッド)	6
田子町(みろくの滝、ガーリックセンター、タブコピアンプラザ、牛祭り)	6
五戸町(尾形精肉店、馬肉、新山神社の連理の木)	5
戸来岳	2
法光寺	2
南郷ジャズフェスティバル	1
三戸城	1
名川チェリーセンター(9月の桃)	1
十和田市現代美術館	38
十和田市(官庁街)	16
三沢航空科学館	12
三沢基地(航空機訓練ほか)	5
寺山修司記念館	6
七戸町(鷹山宇一記念美術館、天王神社のツツジ、NAMIKIジェラート)	6
小川原湖	4
その他温泉(東北温泉、杉の子温泉、八重九重の湯ほか)	4
猿ヶ森砂丘(鳥取砂丘より長い)	3
アグリのリおいらせ	1
馬門スキー場	1
新戸部記念館	1
迷ヶ平	1
○津軽半島方面	
竜飛崎(権現崎、津軽半島、小泊海岸)	137
立佞武多の館・立佞武多	116
五所川原市金木町(斜陽館、津軽三味線会館、芦野公園ほか)	51
津軽鉄道(ストップ列車)	7
五能線(追良瀬)	7
ベンセ湿原・6月の湿原の花	6
地吹雪体験ツアー	5
高山稲荷神社	5
鶴田町(富士見湖パーク、鶴の舞橋、あるじゃほか)	5
今別町(青函トンネル、高野崎ほか)	5
つがる市(地球村、平滝沼公園)	3
外ヶ浜町(大平山元遺跡、おだいばオートビレッジ、観覧山公園ほか)	3
津軽金山焼の工房	2
木造駅	2
エルム・エルムラーメン街道	2
三厩(あじさいロード)	2
つがる市(屏風山、亀ヶ岡遺跡ほか)	2
○下北半島方面	
恐山(宇曽利山湖)	159
仏ヶ浦	103
下北、下北半島	71
大間町、大間崎	61
尻屋崎	57
薬研溪流・薬研温泉・奥薬研	26
佐井村(縫道石山、ぬいどう食堂、願掛岩)	18
下風呂温泉	17
釜臥山・釜臥山展望台(夜景ほか)	12
寒立馬	12
横浜町(菜の花畑、ひまわり)	7
大間町のまぐろ	6
本州最北端の地	5
川内溪流(川内ダム、川内川)	5
六ヶ所村(日本原燃施設、風力発電の風車)	5
田名部まつり	2
風間浦村(イカ釣り)	1
脇野沢	1
大畑桜ロード(国道279号のむつ市大畑区間)	1
むつ市大湊の自衛隊基地及び水源地公園の桜	1

【15】県外の友人・知人に県産品を贈るとしたら、何にしますか。おすすめの物をいくつかも教えてください。(箇条書き等で簡潔にご記入ください)

水産品	農産品	畜産物	菓子類	食品・郷土料理	工芸品
ホタテ・ホタテ加工品	341 りんご	622 馬肉	17 ラグノオのお菓子(*1)	65 スタミナ源たれ	90 津軽塗
いちご煮	74 リンゴジュース	278 倉石牛	16 南部せんべい(いずもりほか)	38 つがる漬・ねぶた漬	80 ブナコ
水産物・水産加工品	71 ナガイモ	126 短角牛肉・八甲田牛・十和田牛	9 アルバジョン 朝の八甲田	21 せんべい汁・汁セット	39 ヒバ加工品
イカ・イカ加工品	36 リンゴ加工品	116 飲むヨーグルト(新郷村ほか)	5 くら餅	17 ご当地ラーメン(味噌カレー牛乳ラーメン、しじみラーメンほか)	11 ござん刺し
十三湖・小川原湖のしじみ	27 ニンニク	107 田子牛	4 おきな屋(薄紅、たわわほか)	11 干し餅	6 金山焼き
うに・うに加工品	24 メロン	55 県産牛肉	4 ジークフリート(青い森ほか)	10 漬物	4 ミニねぶたやねぶた・金魚ねぶた
なかよし	23 嶽キミ	48 シヤモロック	4 県産品を使用したお菓子	9 ご当地カレー(田子にんにくカレー、いのししカレーほか)	3 裂織
大間マグロ	22 さくらんぼ	38 東通牛・東通ビーフジャーキー	3 津軽せんべい(小山せんべい、三浦せんべいほか)	8 豆しとき	3 凧絵
筋子	21 黒にんにく	16 乳製品	3 しかないせんべい(こあき、らぶるほか)	8 バラ焼きのタレ	3 津軽びどろ
鯖・鯖加工品	17 すいか	14 フォアグラ	2 お菓子のみやきん(駒籠頭、北からどでんほか)	8 そば・雲谷そば	3 北洋ガラス
まぐろ	16 農産物・農産物加工品	14 鴨	1 煎餅(飴せんべい、こませんべい、りんごせんべいほか)	8 けの汁	2 こけし
鮭・鮭トバ	14 米	13 ジャパンフォアグラのフォアグラハンバーグ	1 昆布羊羹	5 マタギ飯セット	2 アケビヅル工芸
海峡サーモン	10 ブルーベリー・ブルーベリー加工品	10 ソーセージ	1 洪川せんべい(胡麻新月、牧歌、味噌カレー牛乳せんべい)	4 青森さんのやさしいスープ	2 ねぶた絵
ヒラメ・ヒラメ加工品	8 山菜・みず	10 緑の一番星(田子町)	1 青い花のスイートポテト	4 イカ寿司	2 八幡駒
ナマコ	7 カシス・カシス加工品	9	1 松葉堂まつむらの干梅	3 南蛮味噌	2 木材加工品(深浦木エセンター)
焼き干し	7 ジェネラル・レクラーク	7	1 板かんだりとう(浅虫のもの)	3 さば寿司	2 間伐材の工芸品
鯖・鯖乾物	7 スチューベン	5	1 ニンニクせんべい	3 そばかけ	2 つつみ窪の陶芸品
アワビ	6 横浜町の御なたね油・その他加工品	5	1 石崎弥生堂の縄かりんとう	3 竹の子寿し	2 南部鉄器
たらこ	5 ぶどう	4	1 バナナ最中	3 まほろば茶	1 黒石こけし
トゲクリガニ・カニ	5 ごぼう	4	1 大阪屋の竹ながし	3 マタギ南蛮漬け	1 複製品(まな板等)
ホヤ・ホヤ加工品	5 たけのこ	3	1 生キャラメル煎餅(新郷公社)	3 伝統料理	1 津軽凧
つるつるわかめ	4 アピオス	2	1 かわらけつめい茶アイス(野辺地町観光協会)	2 十和田ばら焼き	1 砂丘びどろ
蛸・蛸加工品	4 干菊	2	1 ほとや製菓のフリーストライしたりんご、ラプリーパイ	2 青森のネバリゴシ冷麺	1 ねぶたに関わる何か
金あゆ	3 ふるさとセンターのジャム・ドレッシング	1	1 やなぎやのお菓子(むちゆどら、あんドーナツ)	2 飯寿司	1 南部の絵馬
鱒	3 ルビー・オクヤマ(大粒系ぶどう)	1	1 トコトコ舎の白いバームクーヘン	2 しじみ汁	1 檜のお盆
鯛	3 古代米	1	1 甘精堂の羊羹	2 あいこ	1 木工品
アンコウ(風間浦鮫鱈ほか)	3 弘前市まごころ農園のジンジャーシロップ	1	1 工藤パンのイギリストースト・チョコレート	2 五所川原北限の梅干し	1 りんご柄の小物(タオル・手ぬぐい等、りんご公園にいっぱい売っています)
ニシンの切り込み	2 自然薯	1	1 松葉堂の麩まんじゅう	1 紫蘇巻きの梅漬け	1 津軽塗り風のネクタイ
ソイ	2 小カブ	1	1 羊精堂の一球入魂パイ	1 青森シヤモロックとまどシチュー	1 ひし刺し
サザエ	2 果実(桜桃・葡萄・梨・林檎各種等)の収穫時期に合わせた少量×頻回のギフトセットパック	1	1 シュトラウスのカシスケーキ	1 奥入瀬餃子	1
ヨウナゴ	1 毛豆	1	1 開雲堂のお菓子	1 蓬田ケチャップ	1
ほっき貝	1 ぼさらコーン	1	1 ナマコ愛すクリーム	1 みそちやっぷ	1
若生昆布	1 しそジュース	1	1 菓子工房美松のサバつがる	1 じゃっぱ汁	1

水産品	農産品	畜産物	菓子類	食品・郷土料理	工芸品
かんかい	1 ジュンサイ	1	パンワールのあん	1 りんごのふるさと冷製	
ウナギ	1 つくねいも	1	マタニのガトーノア	1 スープ(ハーベスト	
丸太ん棒・・・(鳥賊の	1 もも	1	源たれチップス	1 ジャパン)	
足にチーズを詰めた			和菓子処やすだ		
イクラ	1 大鰐温泉もやし	1	の下北しぐれ		
南極昆布	1 なんばんわん	1	大竹菓子舗魔女シ	1	
ケムシカジカ	1 田舎館ぶどうジュ	1	リース		
	ス		ながいもかりんどう	1	
	弘前市のまごころ農		鶴子饅頭	1	
	場のトマトジュース・	1	開運堂の有明	1	
	ジャム		なまこをモチーフにし	1	
	1 キクイモ	1	たお菓子	1	
	1 じゅんさい	1	不二屋製菓のむしお	1	
	1 食用菊	1	くり最中	1	
	1 とうもろこし	1	鱒ヶ沢町の花田煎餅	1	
	1 大豆商品(納豆や豆	1	店のせんべい	1	
	1 腐など)	1	立佞武多最中	1	
	1 ラ・フランス	1	吉幾三関係のお菓子	1	
			松橋菓子舗のメロン	1	
			最中	1	
			アスナロ飴	1	
			萬榮堂の国宝合掌土	1	
			偶	1	
			与作あげ	1	
			チーズケーキ	1	
			やわらかい南部せん	1	
			べいのみみ(三八全	1	
			ACTYのうみねこぼく	1	
			だん	1	
			キリストのハッカ飴	1	

* 1 ラグノオのお菓子内訳

気になるりんご	24
いのち	16
パティシエのりんごス	13
テイク	4
茶屋の餅	4
津軽	2
旅さち	2
つまんでりんご	1
ラグノオのお菓子全	4
般	

④ 誇りを感じるのは「自分自身が見たり、体験したりしたとき」

様々な地域資源に対し愛着・誇りを感じるのはどんな時かを尋ねたところ、「自分自身が見たり、体験したりしたとき」が最も高く 66.8%、次いで「全国放送のテレビ番組で取り上げられたとき」(61.5%)、「県外の友人・知人から褒められたとき」(40.5%) などとなっている。

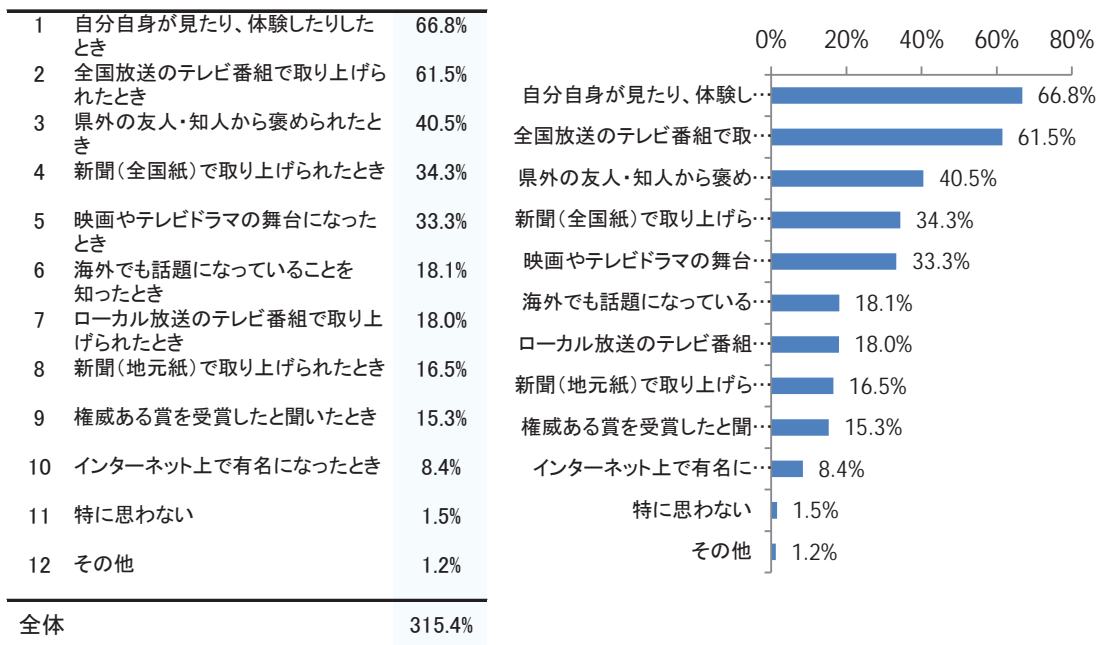
【県人度別】

「全国放送のテレビ番組で取り上げられたとき」は、「生粋県人+県人」(62.7%)が、他県出身者(50.0%)を12.7ポイント上回っている。

【年代別】

年代別で差が大きかったのは「全国放送のテレビ番組で取り上げられたとき」と「全国紙で取り上げられたとき」であり、「全国放送のテレビ番組で取り上げられたとき」の最大は60歳代以上(67.8%)、最小は30歳代(54.3%)で13.5ポイント差、「全国紙で取り上げられたとき」の最大は60歳代以上(44.3%)、最小は20歳代(21.4%)で22.9ポイント差となっている。

問3 「問2」について、あなたが「気に入っている」または「大事にしたい(誇りだ)」と思うのはどんな時ですか。(〇はいくつでも)また、それらに順位をつけた場合1位になるものの番号をご記入ください。



⑤ 自分の住む市町村に対する愛着は高い

現在居住する「市町村」に対し「愛着がある方だ」又は「どちらかと言えば愛着がある方だ」と答えた割合は87.6%となった。

地域によって若干の差はあるが、有意とまで言えるほどではなかった。

【年代別】

「愛着がある方だ」又は「どちらかと言えば愛着がある方だ」と答えた割合は、20歳代87.4%、30歳代84.7%、40歳代82.4%、50代89.7%、60歳代以上91.4%となっており、40歳代が最も低く、60歳代が最も高くなっている。

【県人度別】

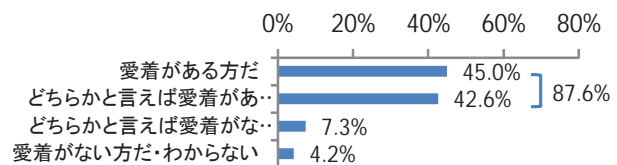
「愛着がある方だ」又は「どちらかと言えば愛着がある方だ」と答えた「生粋県人+県人」の割合は89.4%、他県出身者は71.2%と18.2ポイントの差がある。

【インターネット調査の結果】

同時期に東北6県及び東京都を対象に実施した、現在住んでいる「県」に対する愛着に関する質問について見ると、本県（69.5%）は東北平均（71.2%）をやや下回っているが、全体平均（70.0%）並みとなっている。

問4 あなたは現在お住まいの市町村に対して愛着がある方だと思いますか。（○は1つだけ）

1	愛着がある方だ	45.0%
2	どちらかと言えば愛着がある方だ	42.6%
3	どちらかと言えば愛着がない方だ	7.3%
4	愛着がない方だ・わからない	4.2%
5	無効・無回答	0.9%
全体		100.0%



<参考>

NHK調査	【H8年】青森79.3%/全国81.4%	【S53年】青森85.8%/全国81.3%
インターネット調査	【青森】69.5%	【東北】71.2%
		【東京】62.5%

<参考>インターネット調査「あなたは（居住地）県に対し愛着のある方だと思いますか。」

		n	はい	いいえ	わからない
全体		2800	1959	413	428
		100.0	70.0	14.8	15.3
	青森県	400	278	58	64
		100.0	69.5	14.5	16.0
	岩手県	400	298	47	55
		100.0	74.5	11.8	13.8
	宮城県	400	318	40	42
		100.0	79.5	10.0	10.5
	秋田県	400	262	73	65
		100.0	65.5	18.3	16.3
	山形県	400	272	65	63
	100.0	68.0	16.3	15.8	
福島県	400	281	57	62	
	100.0	70.3	14.3	15.5	
東京都	400	250	73	77	
	100.0	62.5	18.3	19.3	

⑥ 地域のあるがままの姿に共感している県民

地域への愛着が芽生えた時期を「いつの間にか何となく」とする回答が 34.7%と最も多かった。

愛着を感じる理由は「住み慣れているから」(60.9%)、「この土地の自然や食などが自分に合っていると思うから」(45.3%)、「子供の頃からこの土地の祭りや行事に参加してきたから」(37.4%)など、あるがままの地域の姿に共感する意見が多くなっている。

また、地域への愛着を持つ理由のうち「家族や学校からこの土地の良さを教えられてきたから」とする回答は 10.9%にとどまっており、愛着は教えられるものではなく、多くは居住している間に自分自身が経験することによって自然と培われるものであることが推測される。

【県人度別】

他県出身者が愛着を感じる 1 番の理由は「この土地の自然や食などが自分に合っていると思うから」(50.5%) となっている。

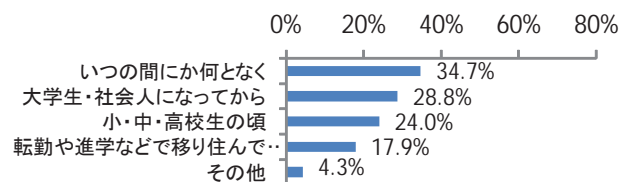
【産業別】

「自分の仕事とこの土地につながりを感じるから」は、第 1 次産業従事者 38.5%、第 2 次産業同 17.2%、第 3 次産業同 18.1%と、第 1 次産業従事者の割合が高くなっている。

愛着は、農林水産業のように地域と密着した就業経験が起こさせる場合もあることがうかがわれる。

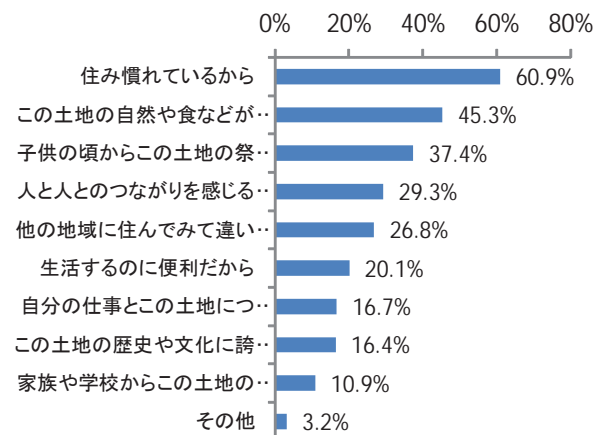
問4-1 それはいつ頃からだと思いますか。(〇はいくつでも)

1	いつの間にか何となく	34.7%
2	大学生・社会人になってから	28.8%
3	小・中・高校生の頃	24.0%
4	転勤や進学などで移り住んでから	17.9%
5	その他	4.3%
全体		109.7%



問4-2 振り返ってみて、あなたはなぜこの土地に愛着を感じるようになったと思われますか。(〇はいくつでも)

1	住み慣れているから	60.9%
2	この土地の自然や食などが自分に合っていると思うから	45.3%
3	子供の頃からこの土地の祭りや行事に参加してきたから	37.4%
4	人と人とのつながりを感じるから	29.3%
5	他の地域に住んでみて違いに気づいたから	26.8%
6	生活するのに便利だから	20.1%
7	自分の仕事とこの土地につながりを感じるから	16.7%
8	この土地の歴史や文化に誇りをもっているから	16.4%
9	家族や学校からこの土地の良さを教えられてきたから	10.9%
10	その他	3.2%
全体		267.0%

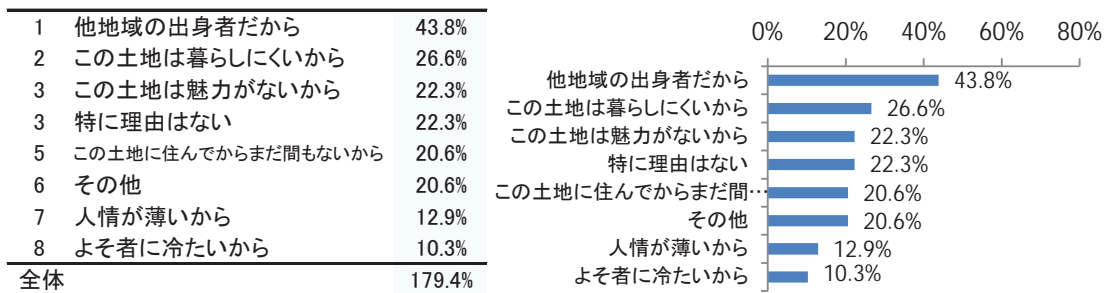


⑦ 地域への愛着がない理由は「他地域の出身だから」が最も多い

地域への愛着がない理由としては、「他地域の出身者だから」(43.8%)が最も多く、次いで「この土地は暮らしにくいから」(26.6%)、「この土地は魅力がないから」(22.3%)などとなっている。

愛着がない理由の「その他」の自由記載欄では、生活の不便さ、雪の多さ、閉鎖性などがあげられている。

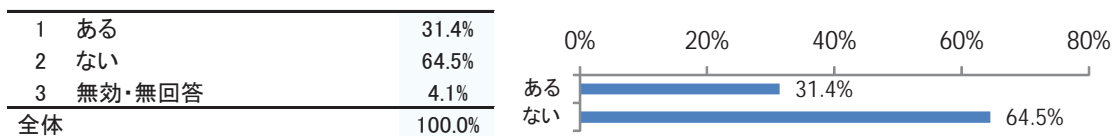
問4-3 それはなぜだと思いますか。あてはまると思うものをお選びください。(〇はいくつでも)



⑧ 「県内の好きなところに住めるとしたら移り住みたい」理由は地域の魅力、利便性

移り住んでみたい場所が「ある」と答えたのは31.4%で、移り住んでみたい市町村は、弘前市、八戸市、青森市の順に多かった。理由として、弘前市は城下町の落ち着きや学生街の魅力、八戸市は雪が少ないことや交通の便、青森市は県庁所在地としての利便性をあげる人が多かった。

問5 もし、何の心配もなく県内の好きなところに住めるとしたら、移り住んでみたいと思う場所がありますか。



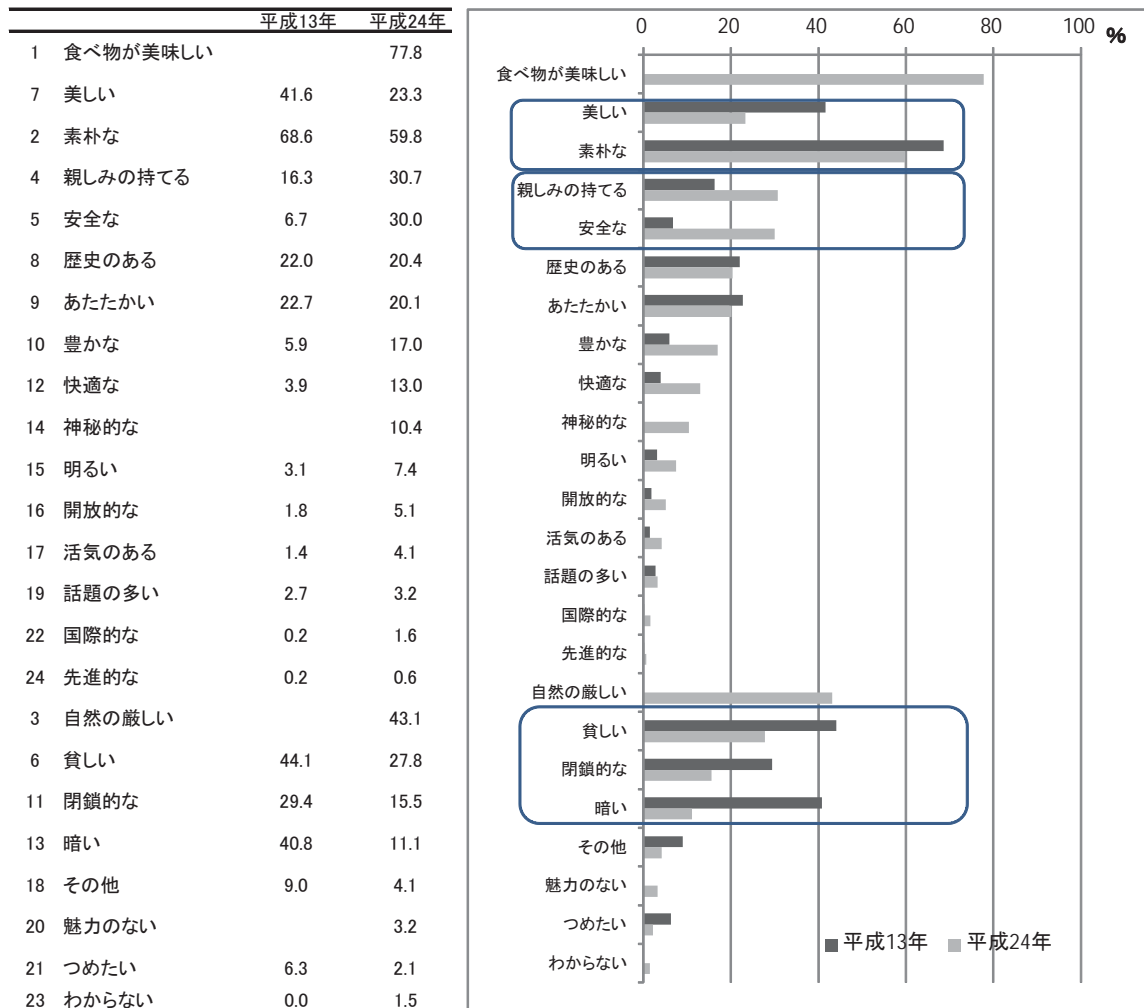
⑨ 青森県に対するマイナスイメージは低下

青森県に対するイメージについて、平成13年に県が行った「青森県のイメージアップに関するアンケート調査」結果と比較してみたところ、プラスイメージの中には「美しい」⑬41.6%→⑭23.3%、「素朴な」⑬68.6%→⑭59.8%のように低下している項目もあるが、「親しみの持てる」⑬16.3%→⑭30.7%、「安全な」⑬6.7%→⑭30.0%のように上昇している項目も多く見られる。

また、「貧しい」⑬44.1%→⑭27.8%、「閉鎖的な」⑬29.4%→⑭15.5%、「暗い」⑬40.8%→⑭11.1%のようにマイナスイメージが低下している。

[青森県のイメージアップに関するアンケート調査(平成13年)との比較]

問6 あなたは青森県に対し、どのようなイメージを持っていますか



(2) 県民気質

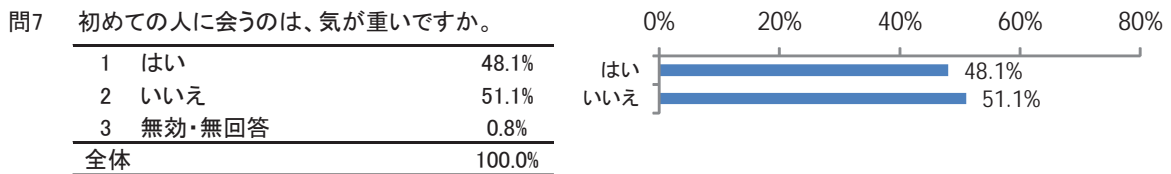
⑩ 青森県民は東北トップレベルの「人見知り」

NHK調査によると「初めての人に会うのは、気が重い」と答えた割合は、平成8年調査、昭和53年調査とも青森県民が全国1位であり、青森県は人見知りが強い県民性とされてきた。

今回のインターネット調査でも、本県（64.3%）は秋田（64.5%）とほぼ並び、東北トップレベルの高さである。

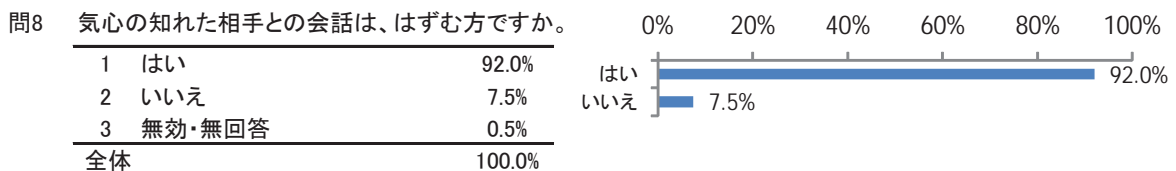
一方で、インターネット調査で「気心の知れた相手との会話ははずむ方だ」と答えた人は、青森（86.8%）、東北（86.6%）、東京（87.5%）ともほぼ横並びであり、人見知りとは言いつつも打ち解けると他県の人と変わらない県民の気質がうかがわれる。

なお、「青森県民のイメージと違うと言われたことがある人」は県民アンケートでは15.6%、補足で行った県職員アンケートでは34.2%となっており、言われた内容の主なものは「なまりがない」「意外と明るい」などである。青森県民がこのように思われる理由としては、無口で人見知りというイメージを持たれることが多いのに対して、実際に打ち解けて話してみると会話が弾むという、そのギャップによるものではないかと推測される。



<参考>

NHK調査	【H8年】青森47.9%／全国41.0%	【S53年】青森55.4%／全国46.6%	
インターネット調査	【青森】64.3%	【東北】60.2%	【東京】49.0%



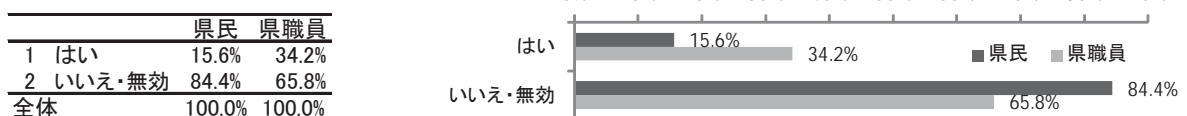
<参考>

インターネット調査	【青森】86.8%	【東北】86.6%	【東京】87.5%
-----------	-----------	-----------	-----------

インターネット調査 (単位：%)

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東京都
初めての人に会うのは、気が重い方だ	64.3	61.3	56.5	64.5	56.0	58.5	49.0
気心の知れた相手との会話ははずむ方だ	86.8	86.3	86.0	87.8	85.5	87.3	87.5

問28 これまで県外の人から、あなた自身の人柄や言葉などのことで「思っていた青森県民のイメージと違う」と言われたことはありますか。



① 青森県民の人付き合いは全国平均並みだが、東北の中では比較的ドライ

人付き合いの仕方について「何でも相談し助け合える」方が望ましいとする回答は、NHK調査では昭和53年73.2%→平成8年60.4%と低下しており、今回の県民アンケートでは51.8%となった。

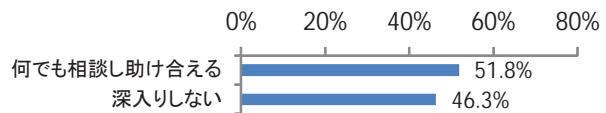
東北や東京と比較するためにインターネット調査の結果を見ると、東北の中では宮城に次いで低くなっている。

また、「日頃からつき合っている親戚は多い」割合は僅差ではあるものの東北では最下位、「隣近所とのつき合いは多い」割合は、宮城に次いで低くなっている。

平成8年のNHK調査では、本県の人付き合いは全国平均並みであるが、東北の中では比較的ドライとされており、その傾向は現在も続いているようである。

問9 次の二つの付き合い方のうちあなたはどちらが望ましいと思いますか。

1	何でも相談し助け合える	51.8%
2	深入りしない	46.3%
3	無効・無回答	1.9%
全体		100.0%

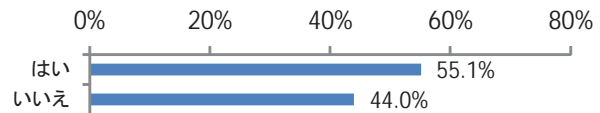


<参考>「何でも相談し助け合える」

NHK調査	【H8年】青森60.4%/全国59.1%	【S53年】青森73.2%/全国68.8%
インターネット調査	【青森】50.8%	【東北】52.6% 【東京】52.8%

問10 お宅では日頃からつきあっている親戚は多いですか。

1	はい	55.1%
2	いいえ	44.0%
3	無効・無回答	0.9%
全体		100.0%

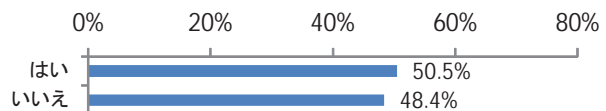


<参考>

NHK調査	【H8年】青森54.2%/全国54.3%	【S53年】青森65.1%/全国63.1%
インターネット調査	【青森】31.3%	【東北】34.5% 【東京】26.8%

問12 お宅では、隣近所の人との付き合いは多いですか。

1	はい	50.5%
2	いいえ	48.4%
3	無効・無回答	1.1%
全体		100.0%



<参考>

NHK調査	【H8年】青森54.0%/全国51.5%	【S53年】青森62.7%/全国58.9%
インターネット調査	【青森】32.3%	【東北】34.5% 【東京】18.8%

参考：インターネット調査

(単位：%)

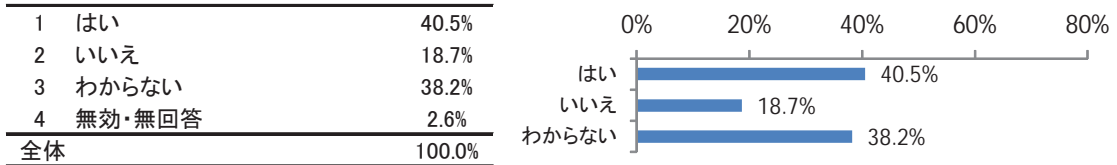
	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東京都
なんでも相談し助けあえる付き合いが望ましい	50.8	53.5	50.3	51.8	52.5	56.8	52.8
日頃からつきあっている親戚は多い	31.3	36.0	33.3	34.5	35.8	36.5	26.8
隣近所の人との付き合いは多い	32.3	36.8	27.5	36.8	37.3	36.8	18.8

⑫ 青森県民のものの考え方には他の県とは違った特徴があると思っている

「青森県の人々のものの考え方には、他の県の人々とは違った特徴がある」と思う人の割合は、平成8年のNHK調査では全国4位と高い順位にあった。

今回のインターネット調査では、東北の中で秋田（72.3%；平成8年8位）、山形（67.8%；平成8年11位）に次いで本県は3番目（66.5%）となっている。しかし東北の他の県は岩手54.8%、福島47.3%、宮城47.0%と開きがあり、「本県の人々のものの考え方には他の県の人々とは違った特徴がある」という気持ちは現在でも強いことが推測される。

問16 青森県の人々のものの考え方には、他の県の人々とは違った特徴があると思いますか。



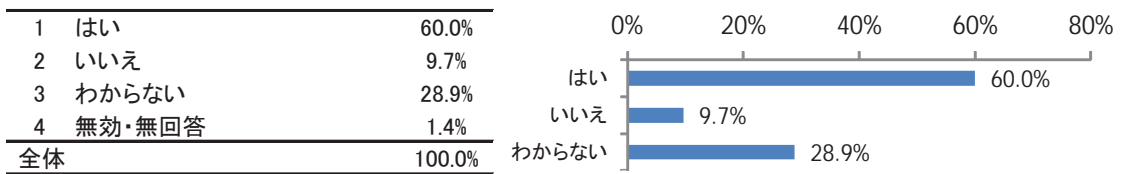
<参考>

NHK調査	【H8年】青森62.2%／全国44.3%	【S53年】青森59.5%／全国44.8%
インターネット調査	【青森】66.5%	【東北】59.3% 【東京】55.0%

⑬ 青森県民は人情味が厚いと思う人は6割

平成8年のNHK調査において「青森県の人々の人情が好き」と答えた人の割合は74.0%（全国60.6%；全国9位、東北5位）と全国では高い方であり、今回の県民アンケートにおいて「県民の人情味が厚い」と答えた人の割合は60.0%となった。インターネット調査において、県民イメージとして「人情味が厚い」を選んだ人の割合は東北中位となっている。

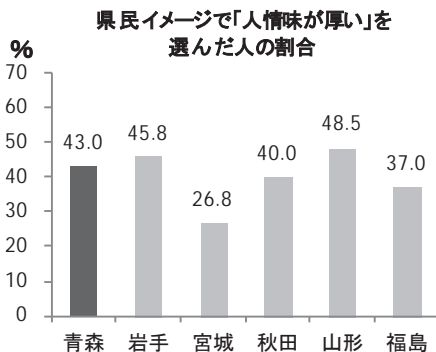
問18 あなたは青森県の人々は人情味が厚いと思いますか。



<参考>

NHK調査	【H8年】青森74.0%／全国60.6%
-------	----------------------

参考：インターネット調査



⑭ 行事や祭りに積極的に参加したいと思う人の割合は今も昔も過半数を超える

「地元の行事や祭りには積極的に参加したいと思う」割合は、NHK調査では昭和53年57.5%→平成8年56.8%とほぼ横ばいとなっており、今回の県民アンケートでも56.9%とほぼ同様の結果となった。

「行事や祭り」に対する県民の意識は今も変わらないようである。

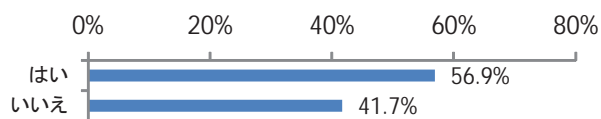
【年代別】

20歳代が66.5%と、各年代の中で最も高くなっている。

若者はイベント的イメージでとらえている可能性もあるが、行事や祭りに対する若者のニーズは高いようである。

問17 あなたは地元の行事や祭りには積極的に参加したいと思いますか。

1 はい	56.9%
2 いいえ	41.7%
3 無効・無回答	1.4%
全体	100.0%



<参考>

NHK調査

【H8年】青森56.8%／全国46.7%

【S53年】青森57.5%／全国47.8%

⑮ 昔からあるしきたりは尊重すべきだと思う人は減少してきている一方で、年代差も見られる

「昔からあるしきたりは尊重すべき」とする割合は、NHK調査では昭和53年62.4%→平成8年59.3%と低下傾向にあり、今回の県民アンケートでは45.6%となった。

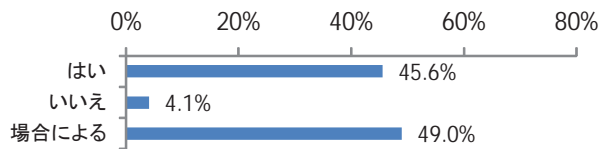
また、「場合による」と答えた人の平均は49.0%とほぼ半数であり、しきたりを否定するだけでなく、柔軟に時代に合わせていこうとする意識もうかがわれる。

【年代別】

20歳代が34.0%であるのに対し、60歳代以上は53.3%と19.3ポイントの差があり、世代間ギャップが見られる。

問19 昔からあるしきたりは尊重すべきだと思いますか。

1 はい	45.6%
2 いいえ	4.1%
3 場合による	49.0%
4 無効・無回答	1.3%
全体	100.0%



<参考>

NHK調査	【H8年】青森59.3%／全国57.2%	【S53年】青森62.4%／全国62.4%
-------	----------------------	-----------------------

⑯ 「よそ者」という言葉がまだ生きていると思う人は他県出身者に多い

「よそ者」という言葉がまだ生きていると思う人の割合は、NHK調査では昭和53年36.1%→平成8年40.6%とほぼ横ばいであり、今回の県民アンケートでは28.2%となった。

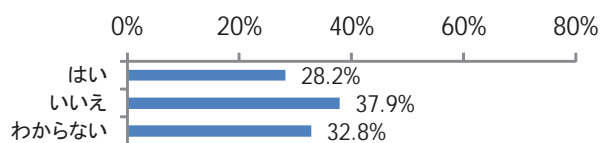
【県人度別】

「生粋県人+県人」が26.5%であるのに対し、他県出身者は46.2%と19.7ポイントの差がある。

平成8年のNHK調査では、他県出身者で「青森県が好き」という人が県人よりも少ないこと、「人情が厚い」という回答が少ないこと、「よそ者ということばがまだ生きている」という人が多いことなどから、『地元での人づき合いの濃淡が県への愛着を分ける要因の1つとなっていることが考えられる』としているが、今回の調査でも同様の傾向が見られる。

問24 いわゆる「よそ者」ということばが、あなたのお住まいの地域ではまだ生きていると思いますか。

1 はい	28.2%
2 いいえ	37.9%
3 わからない	32.8%
4 無効・無回答	1.1%
全体	100.0%



<参考>

NHK調査	【H8年】青森40.6%／全国35.2%	【S53年】青森36.1%／全国31.0%
-------	----------------------	-----------------------

⑰ 住んでいる地域の方が好きな人の割合は高い

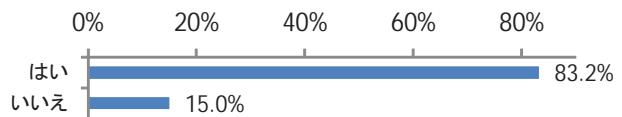
県民アンケートでは「住んでいる地域の方が好きな人」の割合は83.2%とかなり高く、地域、年代においてもあまり差は見られない。インターネット調査では東北各県の平均が71.6%に対し本県は68.5%と福島県（67.3%）に次いで下から2番目となっている。

平成8年のNHK調査では69.0%（全国12位）であり、東北では宮城県に次いで下から2番目だったことからすると、東北の中での位置付けはあまり変わっていないようである。

一方で、テレビやラジオ等で方言が使われることについて「場合によって好ましいと思うときとそうでないときがある」と思う人の割合は48.9%に上り、県民は方言に対して肯定的な意識を持つ一方で、時と場合で使い分けることの必要性を感じていることがうかがわれる。

問20 あなたは現在お住まいの地域の方が好きですか。

1	はい	83.2%
2	いいえ	15.0%
3	無効・無回答	1.8%
全体		100.0%

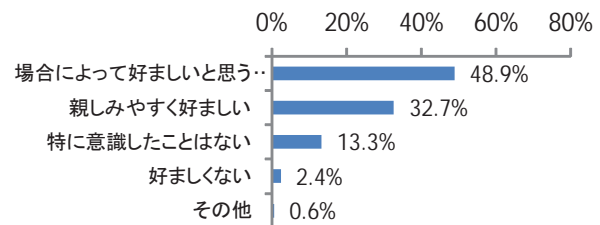


<参考>

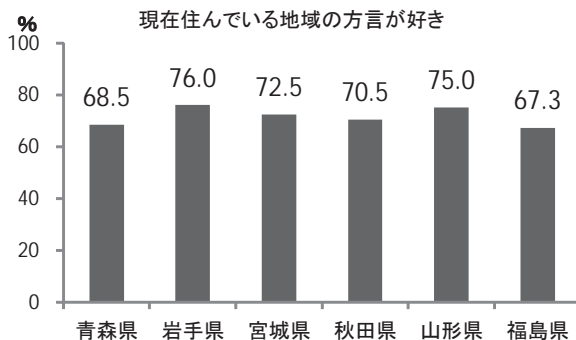
NHK調査	【H8年】青森69.0%／全国61.2%	【S53年】青森63.0%／全国58.8%
インターネット調査	【青森】68.5%	【東北平均】71.6%

問21 あなたは地元のテレビやラジオ等で方言が使われることをどう思いますか。

1	場合によって好ましいと思うときとそうでないときがある	48.9%
2	親しみやすく好ましい	32.7%
3	特に意識したことはない	13.3%
4	好ましくない	2.4%
5	その他	0.6%
6	無効・無回答	2.1%
全体		100.0%



参考：インターネット調査

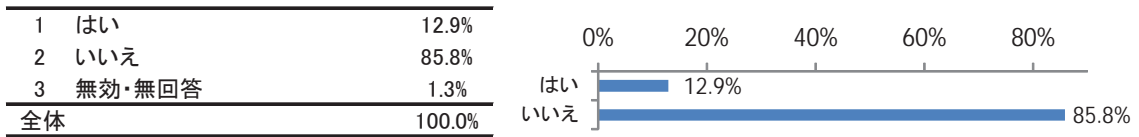


⑩ 東北の中でも本県は「なまり」を強く意識している

一方、方言を「なまり」という視点から見ると、県民アンケートで「地元なまりが出るのは恥ずかしい人」の割合は12.9%と少数派となっており、平成8年のNHK調査（22.8%）と比べても低くなっている。

インターネット調査では、東北平均27.8%に対し本県32.5%と東北では最も高いもののほぼ横並びとなっている。また、居住している県の県民イメージを聞いた設問で「なまりが強い」と回答した青森県民の割合は60.5%と東北で最も高くなっており、青森県が「なまり」を強く意識していることがうかがわれる。

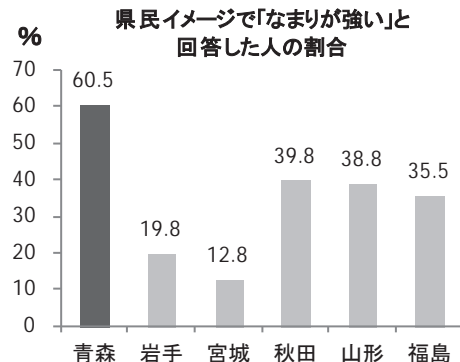
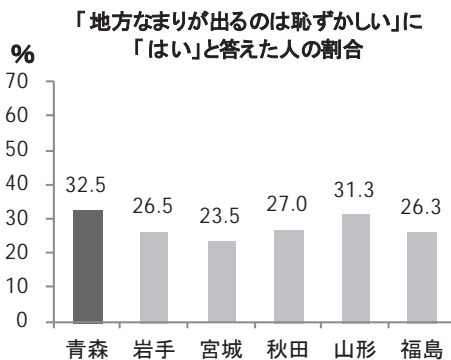
問22 あなたは地元なまりが出るのは恥ずかしいことだと思いますか。



<参考>

NHK調査	【H8年】青森22.8%／全国13.0%
インターネット調査	【青森】32.5% 【東北平均】27.8%

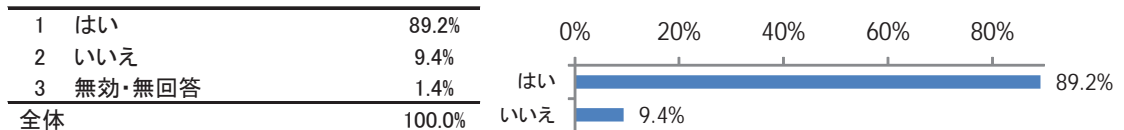
参考：インターネット調査より



⑪ 多くの県民は方言を残したいと思っている

「方言を残していきたい人」の割合は89.2%であり、「住んでいる地域の方言が好きな人」の割合と同水準となった。平成8年のNHK調査でも本県（72.5%）は沖縄県（85.3%）に次いで全国2位であり、「なまり」を意識しつつも、方言を愛し、残していきたいとする気持ちが多くの県民の間に存在していることがうかがわれる。

問23 では、あなたは方言を残していきたいと思いますか。



<参考>

NHK調査	【H8年】青森72.5%／全国56.9%
-------	----------------------

⑳ 青森県民の楽観性、チャレンジ精神は東北の中では平均的

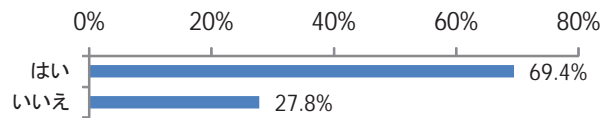
人々が未来に希望を持って行動していく気持ちを持っているかどうか、「希望学」*4の視点から行動や考え方について聞いてみたところ、東北の中での差異はほとんど見られなかった。

県内における地域差もほとんど見られなかったが、唯一「無駄かもしれないことへの努力はしたくない」に「いいえ」と答えた割合は、下北地域（63.2%）が県平均（55.3%）と開きがあるという特徴が見られた。

問25 あなたの行動や考え方について感覚的にどちらかといえば近いと思う方に○をおつけください。

A 物事を良い方向にとらえる方だ。

1 はい	69.4%
2 いいえ	27.8%
3 無効・無回答	2.8%
全体	100.0%

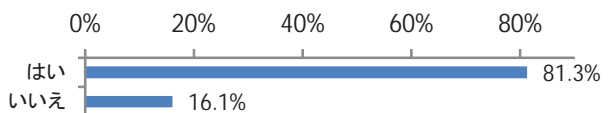


<参考>

インターネット調査	【青森】55.8%	【東北】55.9%	【東京】62.0%
-----------	-----------	-----------	-----------

B 困難な状況になっても可能性を見出そうとする方だ。

1 はい	81.3%
2 いいえ	16.1%
3 無効・無回答	2.6%
全体	100.0%

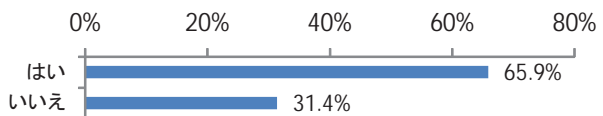


<参考>

インターネット調査	【青森】78.8%	【東北】78.5%	【東京】83.0%
-----------	-----------	-----------	-----------

C 仕事や生活の上で、新しいことを積極的に取り入れたい方だ。

1 はい	65.9%
2 いいえ	31.4%
3 無効・無回答	2.7%
全体	100.0%

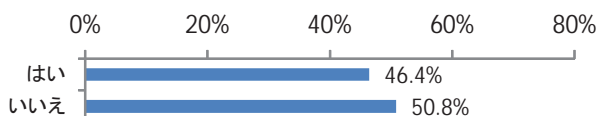


<参考>

NHK調査	【H8年】青森63.0%/全国64.7%	【S53年】青森68.4%/全国68.2%	
インターネット調査	【青森】65.3%	【東北】62.3%	【東京】70.3%

D 目標に対し計画を立て、実行するのが得意な方だ。

1 はい	46.4%
2 いいえ	50.8%
3 無効・無回答	2.8%
全体	100.0%



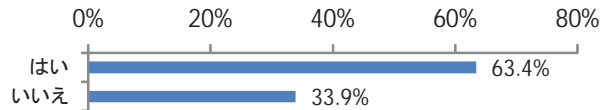
<参考>

インターネット調査	【青森】49.0%	【東北】51.7%	【東京】64.8%
-----------	-----------	-----------	-----------

*4 「希望学」: 2005年から東京大学社会科学研究所が進める、希望を個人の問題としてだけでなく社会の問題として科学的に捉えようとするプロジェクト。研究では、希望を持ちやすい人の性格として、「独立心が強い」「チャレンジ精神がある」「好奇心が強い」「地道にするのは苦手」「楽観・悲観は無関係」であることなどが明らかにされている。(「希望学」玄田有史、2006年中公新書ラクレ)

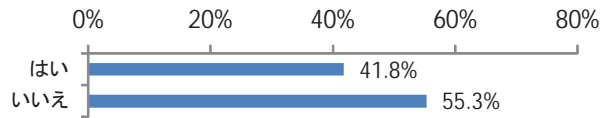
E 他人と協力しあうのが得意な方だ。

1	はい	63.4%
2	いいえ	33.9%
3	無効・無回答	2.7%
全体		100.0%



F 無駄かもしれないことへの努力はしたくない方だ。

1	はい	41.8%
2	いいえ	55.3%
3	無効・無回答	2.9%
全体		100.0%

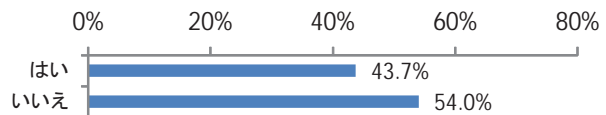


<参考>

インターネット調査	【青森】56.0%	【東北】53.4%	【東京】56.0%
-----------	-----------	-----------	-----------

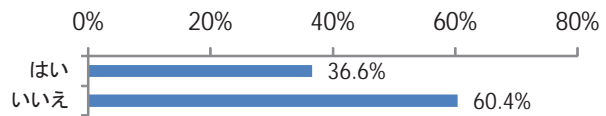
G 先のことは考えても仕方ないと思う方だ。

1	はい	43.7%
2	いいえ	54.0%
3	無効・無回答	2.3%
全体		100.0%



H 現在の生活より将来の生活を重視して行動する方だ。

1	はい	36.6%
2	いいえ	60.4%
3	無効・無回答	3.0%
全体		100.0%



参考：インターネット調査

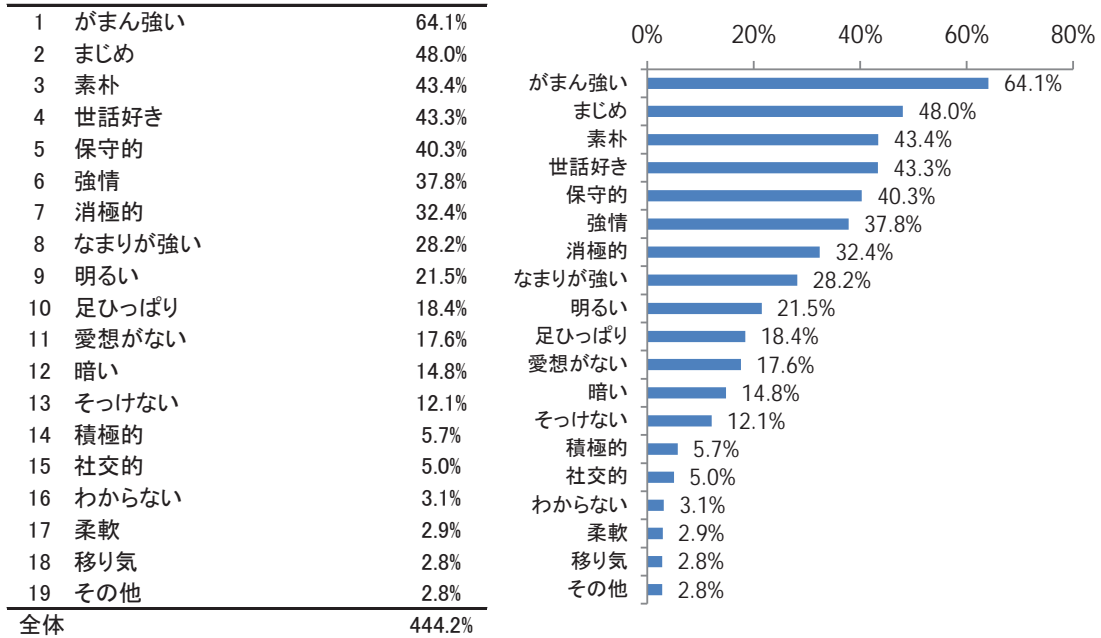
(単位：%)

	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	東京都
物事を良い方向にとらえる方だ	55.8	57.3	55.3	51.8	56.5	59.0	62.0
困難な状況になっても可能性を見出そうとする方だ	78.8	77.5	77.8	76.8	80.3	80.0	83.0
仕事や生活の上で、新しいことを積極的に取り入れた い方だ	65.3	63.0	62.5	56.5	62.5	64.3	70.3
目標に対し計画を立て、実行するのが得意な方だ	49.0	50.3	53.8	50.5	54.3	52.5	64.8
無駄かもしれないことへの努力はしたくない方だ	56.0	49.5	54.5	50.0	53.5	57.0	56.0

⑳ 青森県民のイメージは、がまん強くてまじめ

青森県民が思う県民のイメージは、「がまん強い」(64.1%)、「まじめ」(48.0%)、「世話好き」(43.4%)、「素朴」(43.3%)、「保守的」(40.3%) などである。

問26 あなたは青森県の人々に対し、どんなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

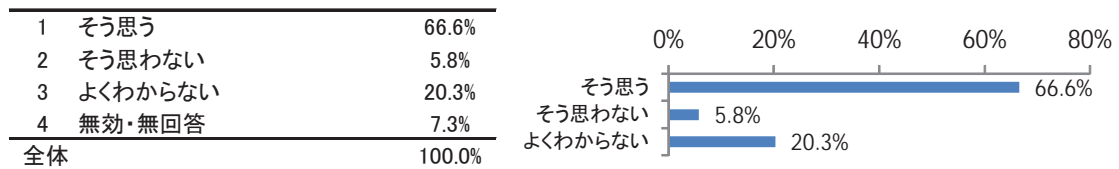


㉑ 地域によって人々の気質が違うと思う県民は6割を超える

「地域によって人々の気質が違う」と思う県民は、66.6%と6割を超えている。

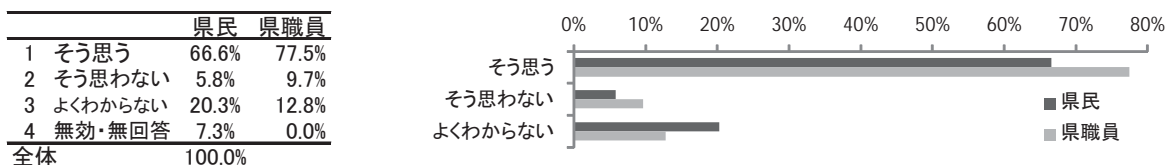
仕事柄、県内各地の人々と接する機会の多い県職員へのアンケートでは、77.5%とさらに多くが「そう思う」と回答している。

問27 同じ青森県民でも、住む地域によって人々の気質が違うと言われることがあります。あなたは、このことについてどう思いますか。



<参考> 県職員アンケート

同じ青森県民でも、住む地域によって人々の気質が違うと言われることがあります。あなたは、このことについてどう思いますか。

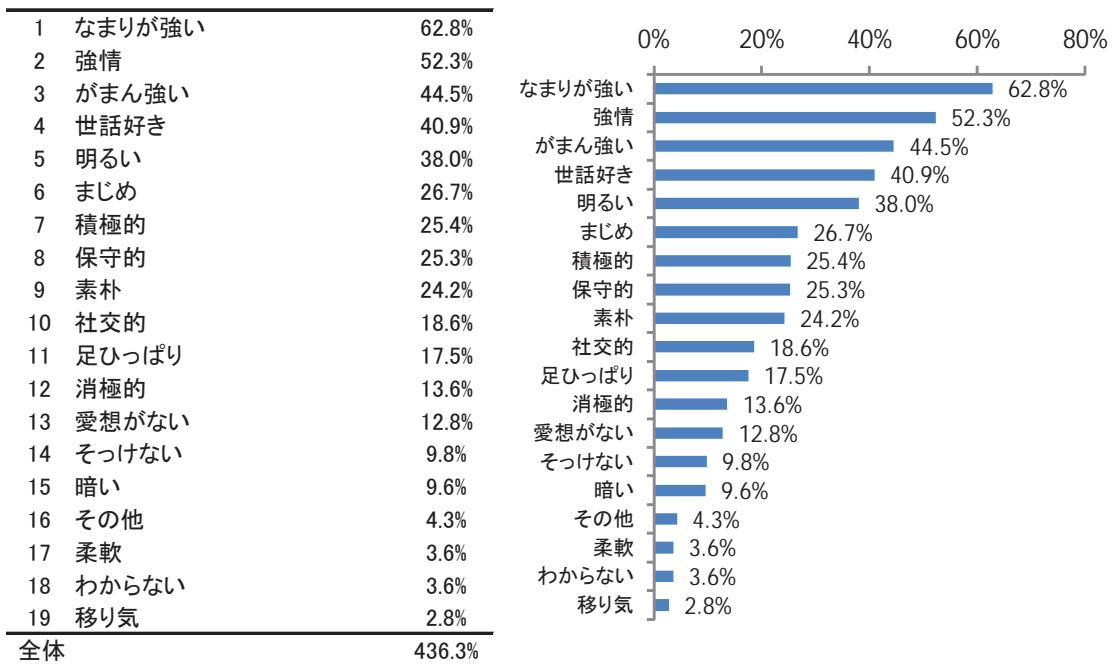


⑳ 津軽地域の人々のイメージは他の地域よりも強く意識されている

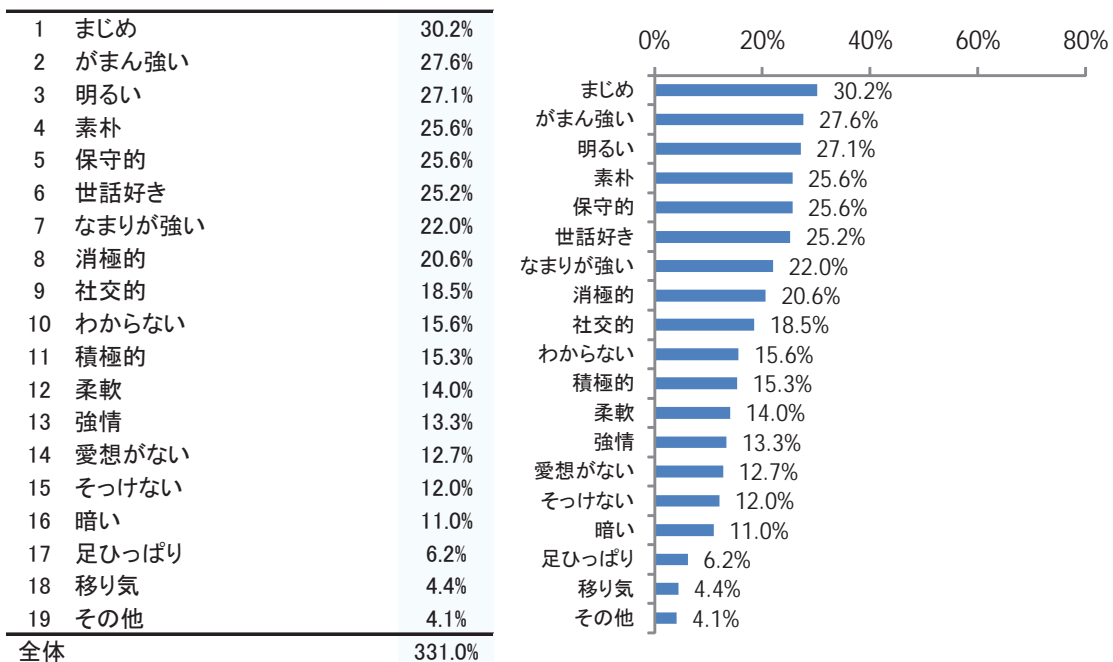
「住む地域によって人々の気質が違うと思う」と回答した人に対して、津軽地域、南部地域、下北地域に住む人々に対して持っているイメージを選択（複数回答可）してもらったところ、選択された項目数の平均は、津軽地域が4.4個、南部地域が3.3個、下北地域が2.8個であった。また、それぞれの地域のイメージを「わからない」と回答した人の割合は、津軽地域が3.6%であるのに対して、南部地域が15.6%、下北地域では34.5%となっている。

これらのことから、県内では津軽地域の人々のイメージが南部地域・下北地域に比べ、強く意識されていることがうかがわれる。

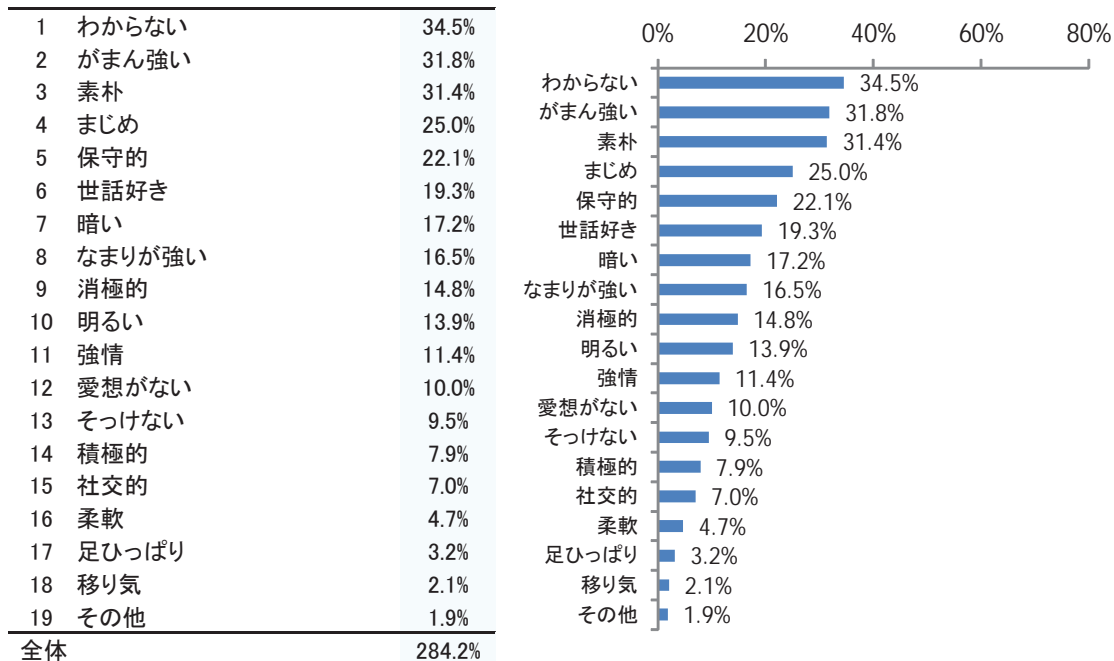
問27-1 では、津軽地方に住む人々に対し、どんなイメージを持っていますか。（○はいくつでも）



問27-2 では、南部地方に住む人々に対し、どんなイメージを持っていますか。（○はいくつでも）



問27-3 では、下北地方に住む人々に対し、どんなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)



④ 自分が住んでいる地域の人に対して持っているイメージと、他の地域の人から思われているイメージには違いが見られる

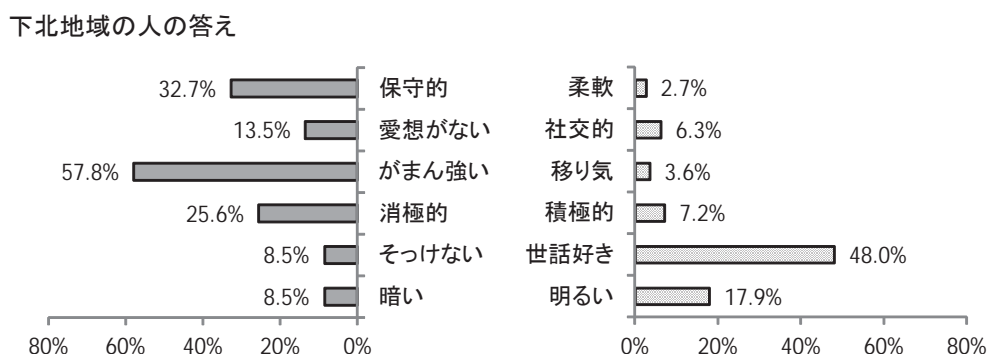
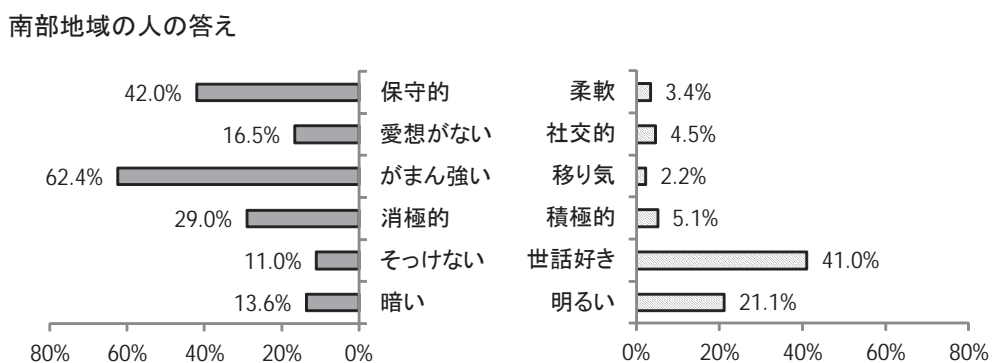
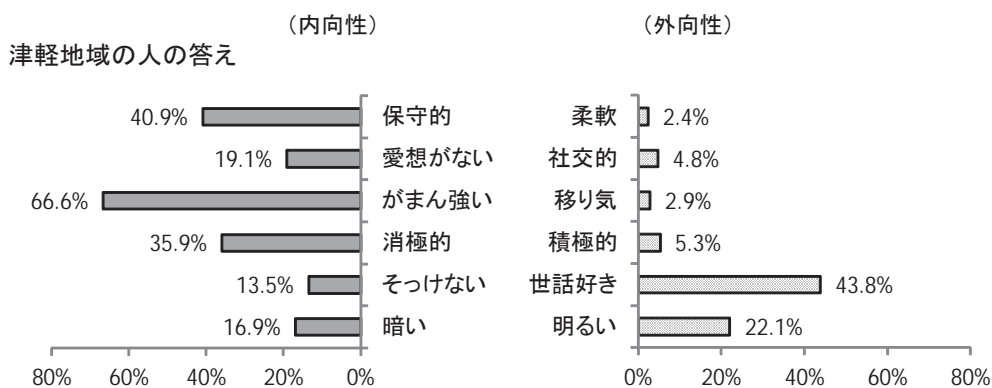
県民のイメージに地域ごとの違いがあるかを見るため、人間のタイプを「内向」と「外向」に分けて類型化したスイスの精神医学者ユングによる考え方を参考に、設問項目を「内向性」と「外向性」に分類して比較してみた。

先の青森県民が思う県民イメージを、津軽、南部、下北地域に分けて集計・比較してみると、どの地域においてもほぼ同じ結果となっており、イメージする対象を「青森県民」とした場合、居住地域によるイメージの差は見られない。(p. 43)

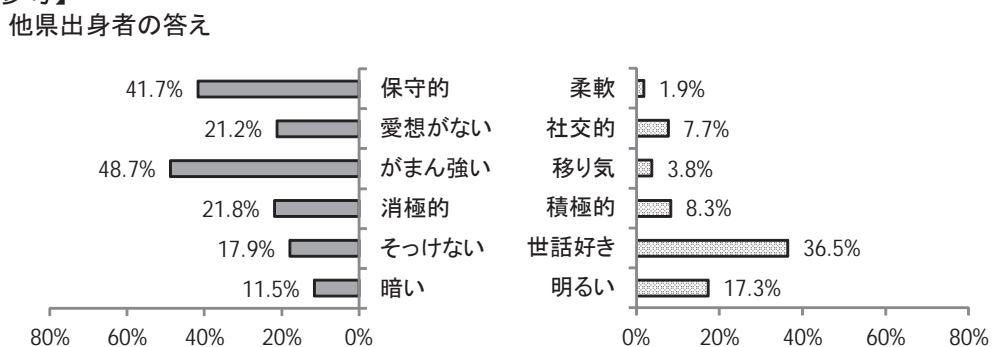
一方、イメージする対象を「津軽地域の人々」「南部地域の人々」「下北地域の人々」とした場合、自分が住む地域の人々に対して持っているイメージ（自己評価）と、他の地域の人々から思われているイメージには違いが見られる。(p. 44～46)

<青森県民のイメージ>

問26 あなたは青森県の人々に対し、どんなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

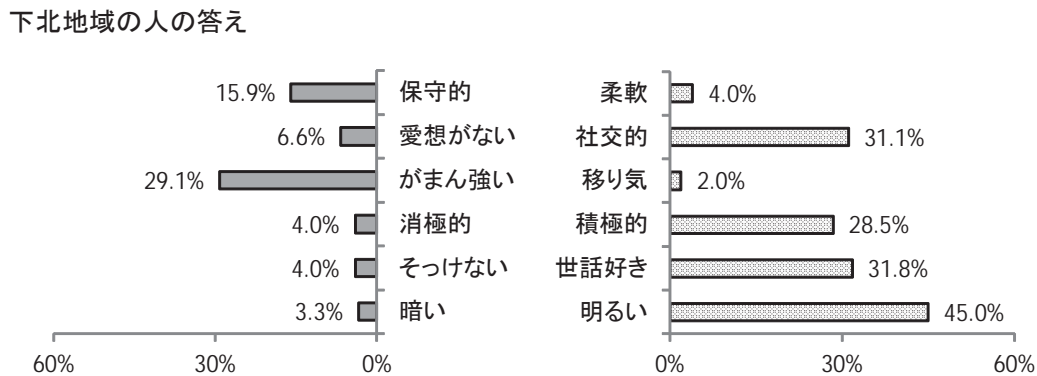
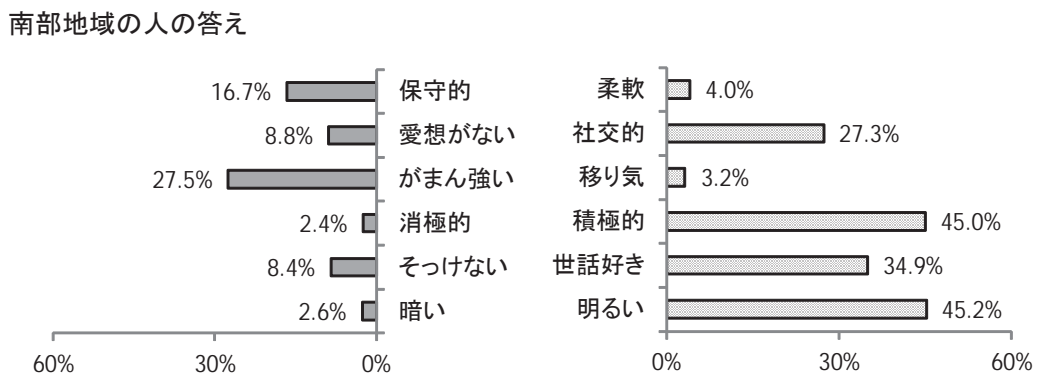
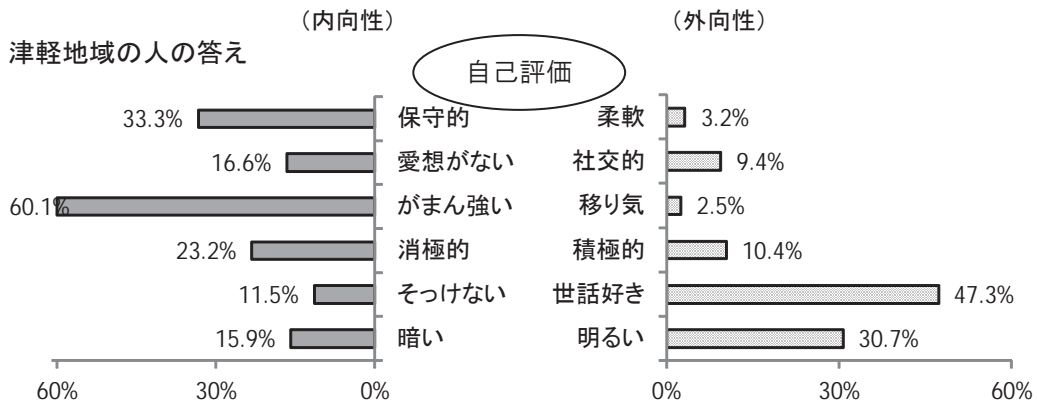


【参考】

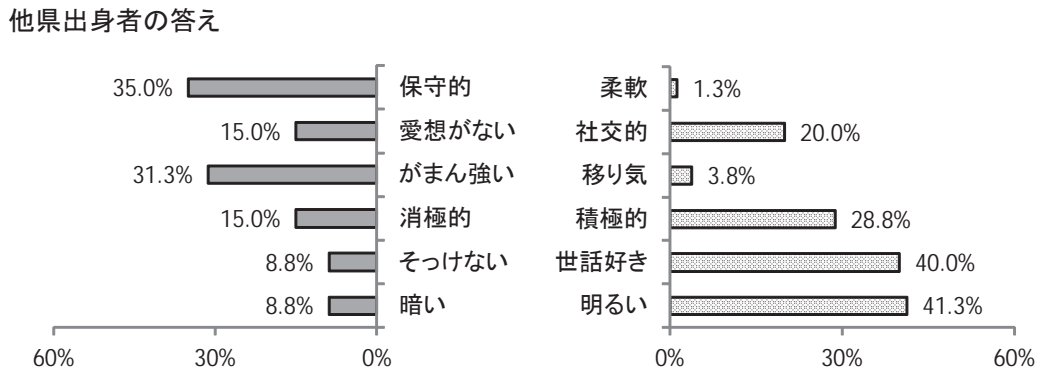


<津軽地域に住む人々のイメージ>

問27-1 津軽地域に住む人々に対し、どんなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)

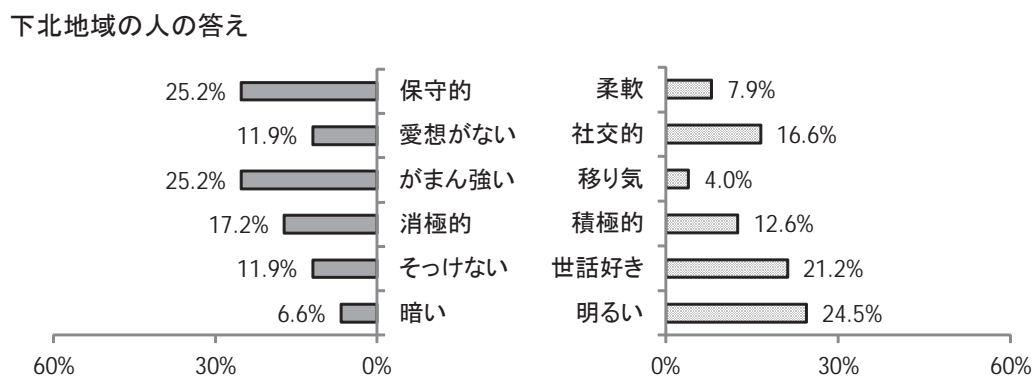
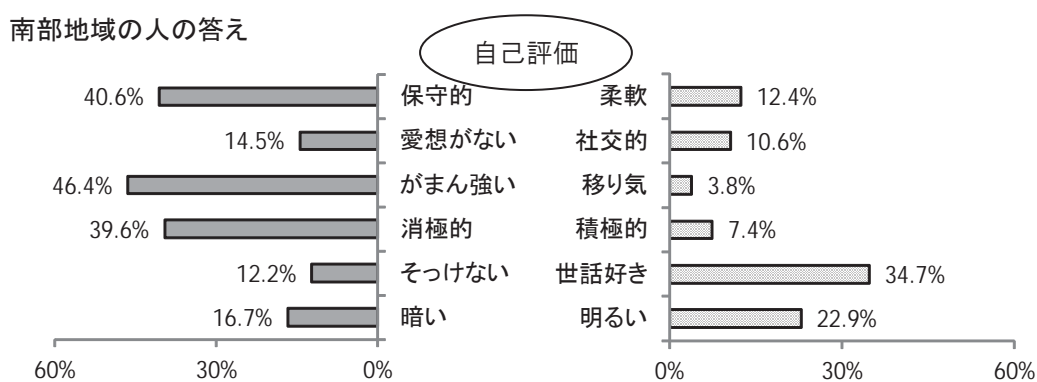
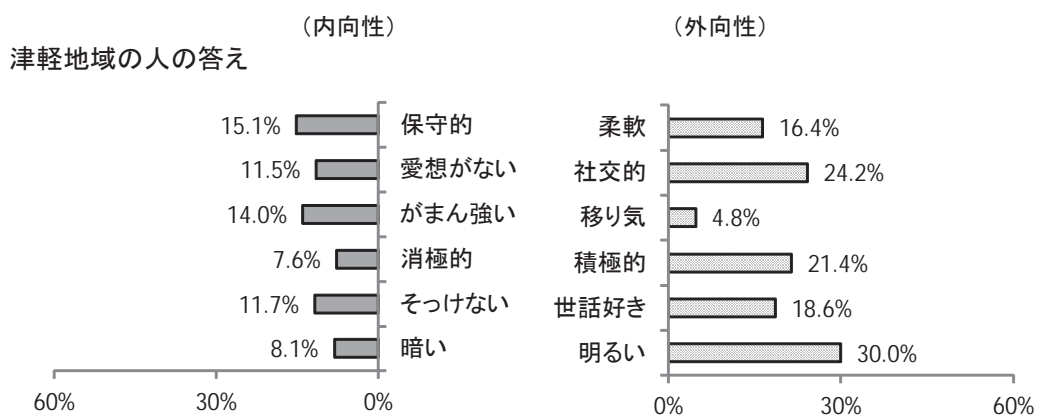


【参考】



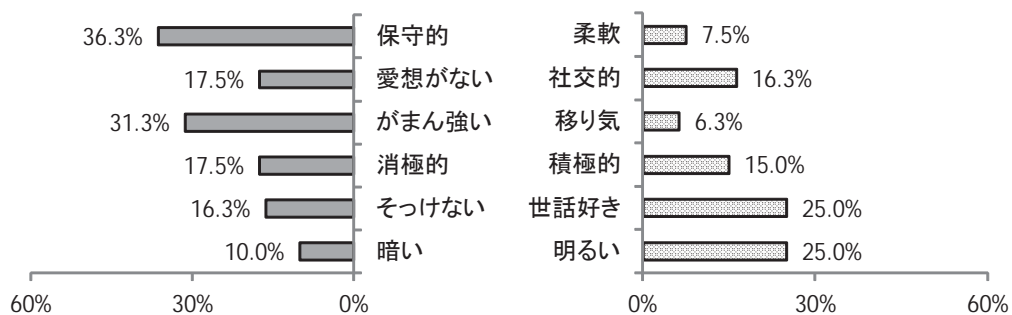
<南部地域に住む人々のイメージ>

問27-2 南部地域に住む人々に対し、どんなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)



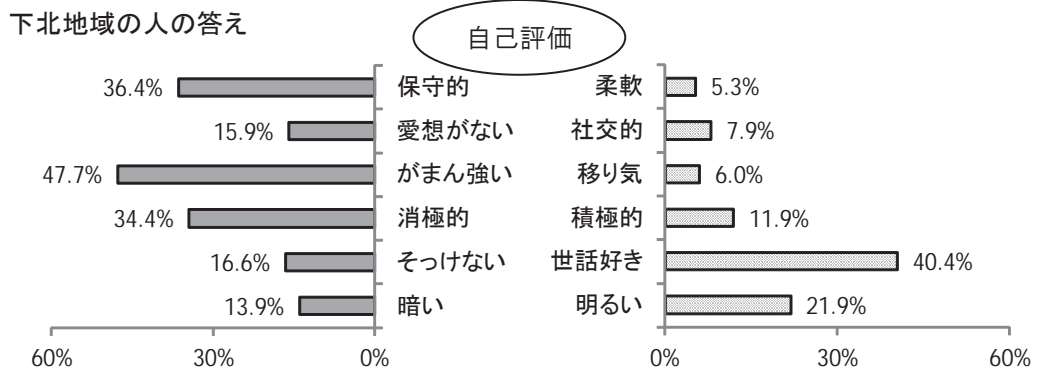
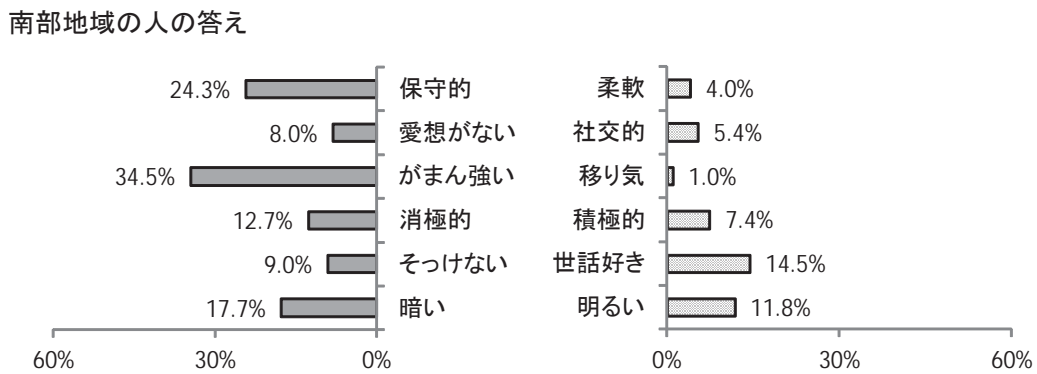
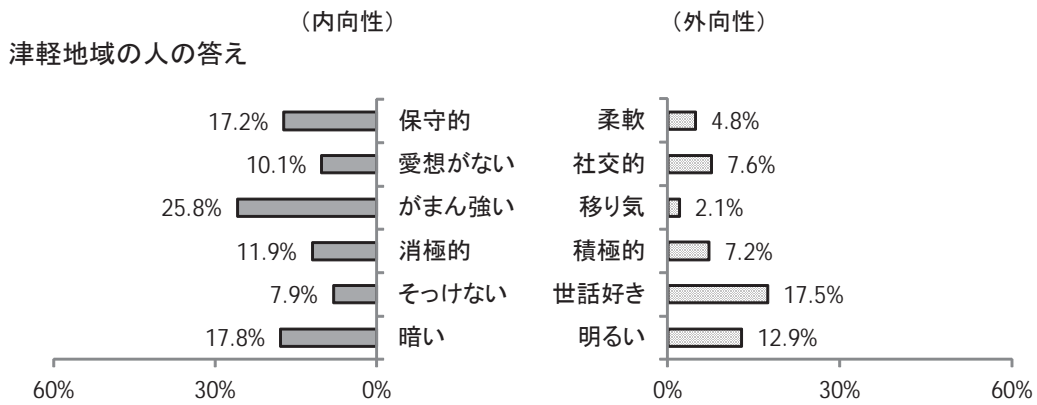
【参考】

他県出身者の答え



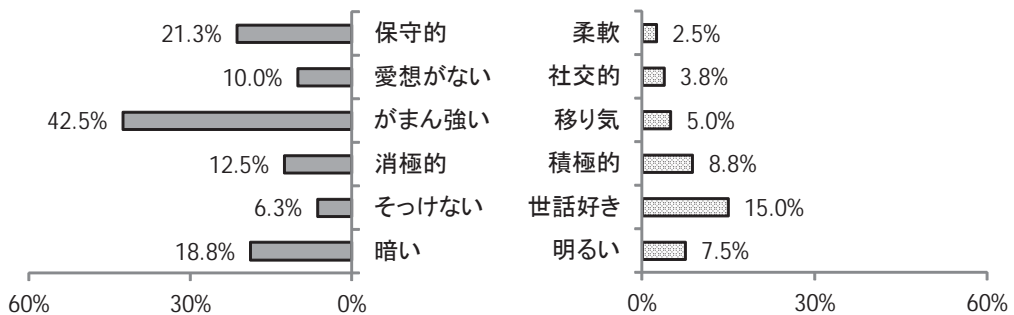
<下北地域に住む人々のイメージ>

問27-3 下北地域に住む人々に対し、どんなイメージを持っていますか。(〇はいくつでも)



【参考】

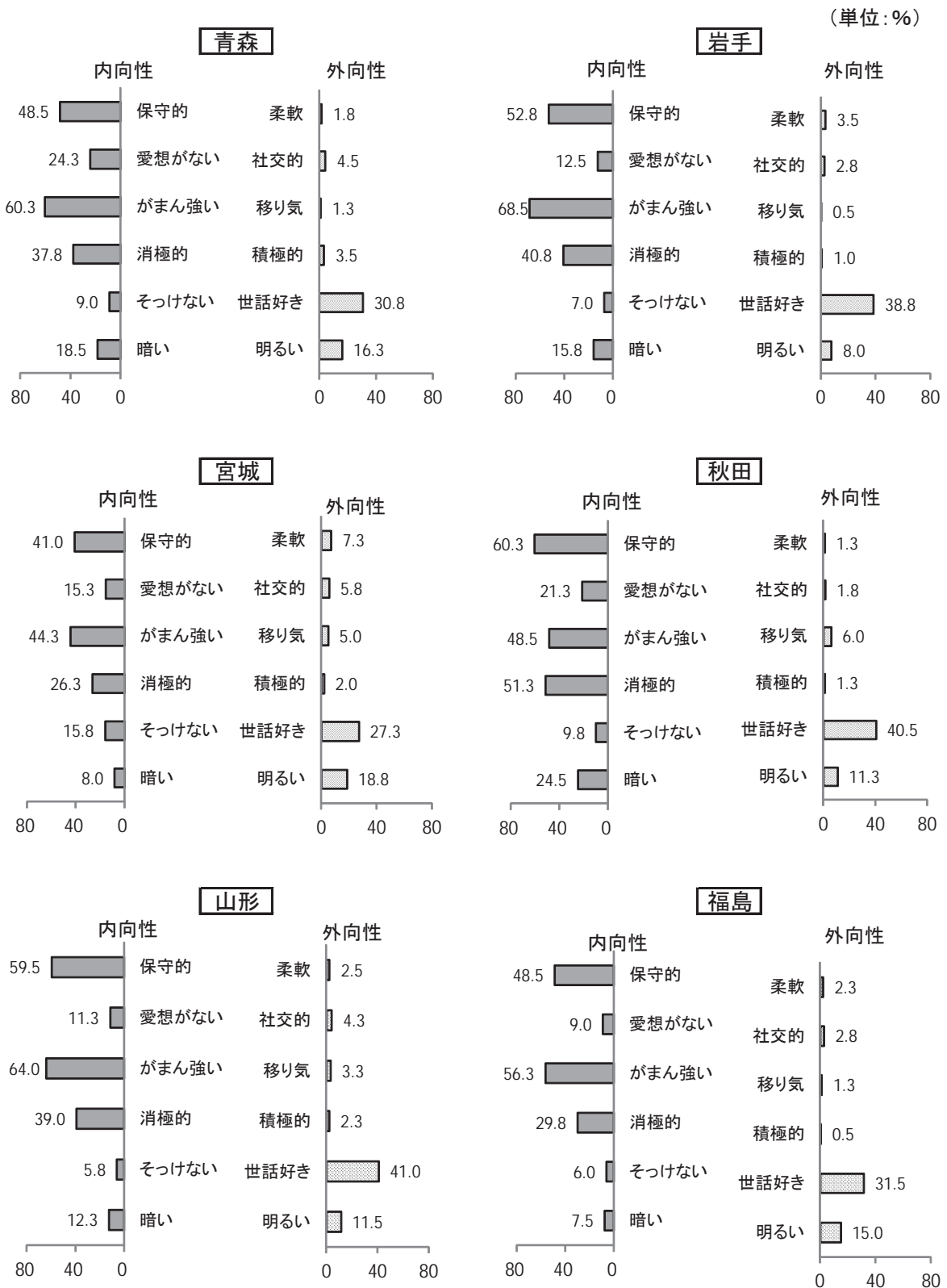
他県出身者の答え



◎県民イメージの特徴を東北地方で比較してみると、全般的に同じような傾向がみられる

【参考】

問 26 関係 東北 6 県のインターネット調査結果をユングによる内向的性格の特徴、外向的性格の特徴に着目して選択肢を類型化し比較



㊦ 東北＝田舎というイメージに対する東北人の思いは複雑

参考：インターネット調査より

「テレビドラマなどで〇〇県から来た田舎者という設定でストーリーが展開するとき、あなたはどのように感じますか。」(自由記述) [〇〇は住んでいる県]

東北6県に上記の質問をしたところ、東北＝田舎という固定観念を不快とする意見、仕方がないとする意見、素朴で我慢強い人柄の表れとする意見、方言が正しく使われていないことへの不快感・違和感を表す意見など、東北の人々の思いは複雑であった。

特に宮城県では仙台は東北の中では最も都会的であり、田舎ではないとする意見が多く見られた。また、青森県では、青森県＝津軽弁ではないとする意見も複数見られた。

(3) 地域情報の収集方法

②⑥ 地域の話題や新情報を得る媒体は、テレビ・新聞・広報紙

地域情報の情報源としては、「テレビ」(78.1%)と「新聞」(71.1%)の2つが大きく抜き出ており、「県や市町村の広報紙」も41.0%と高い割合となっている。

【年代別】

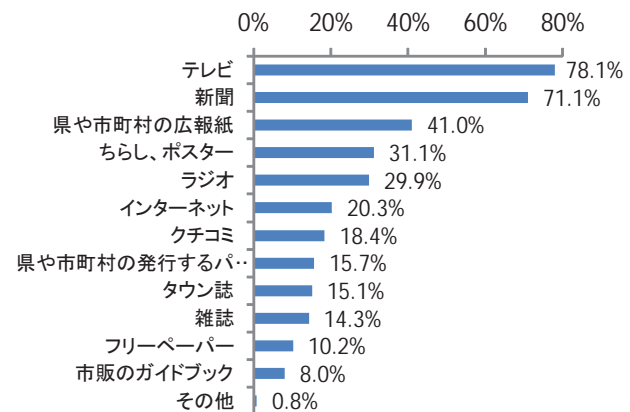
「テレビ」は年代を追うごとに割合が高くなり、最大は60歳代以上(82.2%)、最小は20歳代(69.8%)で、12.4ポイント差となっている。

年代別の差が最も大きいのは「新聞」であり、最大は60歳代以上(83.5%)、最小は20歳代(51.6%)で、31.9ポイント差となっている。

また、「インターネット」は、最大が30歳代(33.0%)、最小が60歳代以上(7.2%)で、25.8ポイント差となっている。

問29 あなたは地域の話題や新しい情報を、普段どんな媒体から得ることが多いと感じますか。(〇はいくつでも)
また、それらに順番をつけた場合「1位」と思われるものの番号を回答欄にご記入ください。

1	テレビ	78.1%
2	新聞	71.1%
3	県や市町村の広報紙	41.0%
4	ちらし、ポスター	31.1%
5	ラジオ	29.9%
6	インターネット	20.3%
7	クチコミ	18.4%
8	県や市町村の発行するパンフレット	15.7%
9	タウン誌	15.1%
10	雑誌	14.3%
11	フリーペーパー	10.2%
12	市販のガイドブック	8.0%
13	その他	0.8%
全体		354.0%

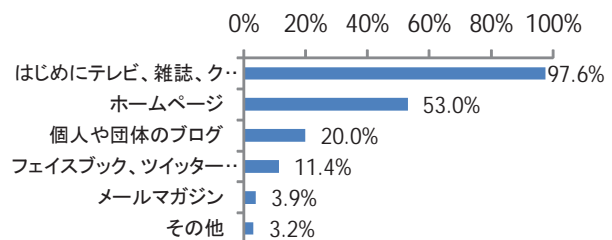


②⑦ インターネットは、検索目的での利用が多い

インターネットについては、テレビ等から得た情報を詳しく検索するために利用する場合は97.6%と最も多くなっている。

問29-1 あなたが地域の新しい情報等をインターネットで得る場合、どれが役に立っていると思いますか。(〇はいくつでも)

1	はじめにテレビ、雑誌、クチコミ等で得た情報をインターネットで詳しく検索	97.6%
2	ホームページ	53.0%
3	個人や団体のブログ	20.0%
4	フェイスブック、ツイッター等のソーシャルメディア	11.4%
5	メールマガジン	3.9%
6	その他	3.2%
全体		189.1%



⑳ ログマーク、イメージキャラクターは、若い人ほど早く浸透する

使用開始時期や趣旨が異なるマーク等をサンプルとして、それらに対する認知度や愛着を調べたところ、「見たことがある人」が最も多かったのは、「活彩あおもりシンボルマーク」*⁵ (84.8%) で、以下「決め手くん」*⁶ (71.7%)、「いくべえ」*⁷ (46.7%) となっている。

一方、「意味も知っている人」が最も多かったのは「決め手くん」(12.2%) で、以下「活彩あおもりシンボルマーク」(8.4%)、「いくべえ」(3.3%) となっている。

これらのことから、使用期間が長いほど、「見たことがある人」の割合は高まるが、意味までわかる人の割合は、使用期間だけでは決まらないことがうかがえる。

県内の市町村等が作ったキャッチフレーズやイメージキャラクター等で気に入っているものがあるかを尋ねたところ、25.8%の人が「ある」と回答している。地域別に見ると、最大は中南地域(40.4%)で、人気が高かったキャラクターは「たか丸くん」であった。

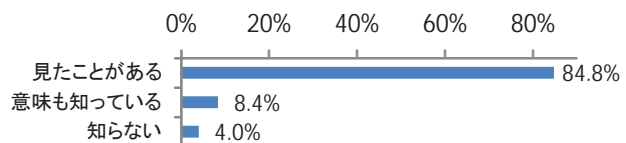
【年代別】

「活彩あおもりシンボルマーク」は最大が20歳代(91.2%)、最小が60歳代以上(79.8%)で11.4ポイント差、「決め手くん」は最大が20歳代(77.2%)、最小が60歳代以上(68.4%)で8.8ポイント差、「いくべえ」は最大が20歳代(61.4%)、最小が60歳代以上(39.2%)で22.2ポイント差となっており、どのマーク等も若い世代ほど認知度は高く、周知期間が短くても若い世代にはよく伝わっていることがうかがわれる。

問30 あなたは、以下のロゴマークやイメージキャラクターをどのくらい知っていますか。

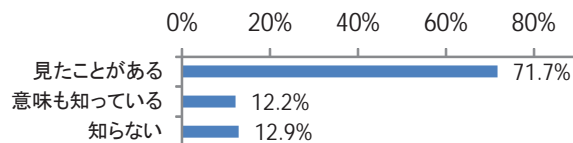
A 活彩あおもり(青森県イメージアップのシンボルマーク)

1	見たことがある	84.8%
2	意味も知っている	8.4%
3	知らない	4.0%
4	無効・無回答	2.8%
全体		100.0%



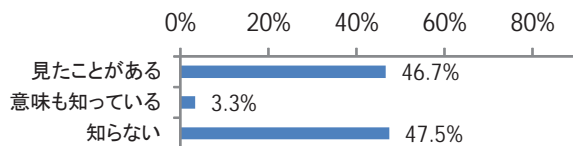
B 決め手くん(青森県産品PRキャラクター)

1	見たことがある	71.7%
2	意味も知っている	12.2%
3	知らない	12.9%
4	無効・無回答	3.2%
全体		100.0%



C いくべえ(あおもり観光マスコットキャラクター)

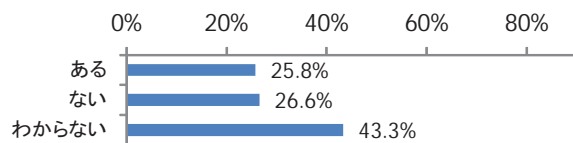
1	見たことがある	46.7%
2	意味も知っている	3.3%
3	知らない	47.5%
4	無効・無回答	2.5%
全体		100.0%



問31 前記も含め、県内の市町村や団体等が作ったキャッチフレーズやイメージキャラクターなどで、あなたが気に入っているものはありますか。

「ある」と答えた場合は、わかる範囲で具体的にご記入ください。

1	ある	25.8%
2	ない	26.6%
3	わからない	43.3%
4	無効・無回答	4.3%
全体		100.0%



*5 青森県イメージアップのシンボルマーク。使用開始時期：平成7年3月～

*6 青森県産品PRキャラクター 使用開始時期：平成18年2月～

*7 あおもり観光マスコットキャラクター 使用開始時期：平成20年2月～

⑳ 他市町村の暮らし、文化、歴史などをもっと知ることへのニーズは高い

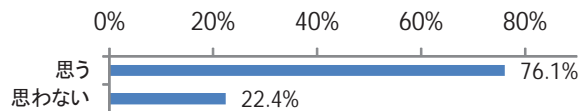
県民の76.1%が自分の住む市町村以外の県内の他の地域の暮らし、文化、歴史を知りたいと答えており、ニーズは高い。

クロス集計により、地域、県人度、年代別に見てもほとんど差は見られなかった。

また、問4で現在住んでいる市町村に対し「どちらかといえば愛着がある」と答えた人で「知りたい」と答えた人は74.8%、同じく「愛着がある」と答えた人で「知りたい」と答えた人は80.3%となっている。

問32 あなたは、自分が住む市町村以外の県内の他の地域の暮らしや文化(食べ物、方言、伝統、名所、名店など)歴史などをもっと知ってみたいと思いますか。

1	思う	76.1%
2	思わない	22.4%
3	無効・無回答	1.5%
全体		100.0%



㉑ 地域の暮らし、文化、歴史などをもっと知る方法として関心が高いのは、街歩き、地域資源を活用したイベント、宿泊ツアーなど

地域を知るための方法として興味を持つものを尋ねたところ、街歩き(49.2%)、地域資源を活用したイベント(43.6%)、宿泊ツアー(36.4%)の割合が高くなっている。また、地域別に見ても大きな差は見られなかった。

【年代別】

差が大きかったのは「地域を知るための文化講座」で、最大の60歳代以上(29.5%)と最小の20歳代(9.3%)で20.2ポイントの差があった。

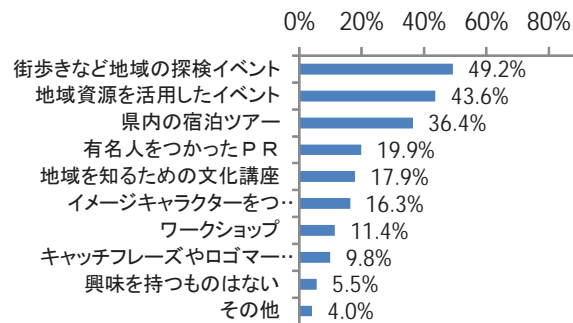
また「有名人を使ったPR」は最大の20歳代(34.9%)と最小の60歳代以上(15.3%)で19.6ポイントの差があった。

「宿泊ツアー」はどの年代も30%以上で、年代差はほとんどない。

問33 では、地域の暮らし、文化、歴史などをもっと知る方法として、あなたならどれに興味を持ちますか。

(〇はいくつでも)

1	街歩きなど地域の探検イベント	49.2%
2	地域資源を活用したイベント	43.6%
3	県内の宿泊ツアー	36.4%
4	有名人をつかったPR	19.9%
5	地域を知るための文化講座	17.9%
6	イメージキャラクターをつかったPR	16.3%
7	ワークショップ	11.4%
8	キャッチフレーズやロゴマークをつかったPR	9.8%
9	興味を持つものはない	5.5%
10	その他	4.0%
全体		214.0%



③ 自由意見

子供の減少や若者の流出を憂う声と共に、自然の豊かさ、生まれた育ったところへの愛着、PRをもっとすべきことなど、前向きで、温かい意見が多数を占めた。

このような調査で、自由意見への記入は通常2～3割程度であるが、今回は約6割の記入があり、また長文が多かったのも特徴的であった。

問34 あなたがふるさとへの思いについて、自由にご意見をお書きください。

1 回答あり	58.8%
2 無効・無回答	41.2%
全体	100.0%

自由意見の内容についてはさらに分析を進め、今後の展開方向を検討する上での参考として活用していくこととする。

「自慢したくなるあおり推進事業」とは・・・・・・・・

この事業は提案者事業実施制度（庁内ベンチャー制度）により実施しているもので、地域活性化のためには、県民の地域に対する愛着や誇りを高めることが重要であるとの観点から、①あおりを知り、②あおりを好きになり、③あおりを自慢したくなる、という一連のプロセスにより青森県への愛着や誇りを醸成し、地域を元気にしていこうとする取組です。

実施期間は平成24・25年度の2ヵ年で、今年度行った意識調査をもとに今後の方向性を検討し、25年度の具体的な取組につなげていくことにしています。